

普通高等学校

日本語標準課程

(実験)

中華人民共和国教育部制定

人民教育出版社

目次

第一部 前文	(1)
一、教育課程の性質	(1)
二、教育課程の基本理念	(1)
三、教育課程の基本構想	(3)
第二部 課程目標	(6)
第三部 内容標準	(8)
一、言語知識	(8)
二、言語技能	(9)
三、文化的素養	(10)
四、情意・態度	(10)
五、学習ストラテジー	(10)
第四部 実施提言	(11)
一、授業提言	(11)
二、評価提言	(15)
三、教科書編纂提言	(17)
四、リソースの開発と利用	(18)
付録	(19)
一、話題	(19)
二、コミュニケーション表現	(20)
三、語彙	(23)
四、文法	(60)
五、教育実践例	(64)
六、評価事例	(69)

第一部 前 文

国際政治の多様化、社会生活の情報化や経済活動のグローバル化により、外国語は世界各国間のコミュニケーションを図るうえで、益々重要な影響をもたらし、外国語教育は既に国民の資質教育にとって不可欠な構成部分となっている。

1980 年代、日本語はわが国の中等教育のなかで、正式に必修外国語科目の一つとされた。中学・高校で日本語教育課程を開設することは、多様な外国語に対応できる人材を養成できるだけでなく、中日間の政治、経済、文化交流の上で必要なものである。中日両国の人々、特に青少年の相互理解や交流を促進させるためにも必要である。

日本語教育課程は、生徒の為にゆとりがあり、実際の生活に近い生きた言葉を学べる環境を整え、ある話題を基に行うコミュニケーションなど様々な教育活動を展開することにより、生徒に基本的な日本語の知識と技能を習得させると同時に、自律的学習力や人文的素養においても向上させるように努める。

一、教育課程の性質

外国語は普通高等学校の必修課程であり、言語と文学の領域に属し、義務教育段階の上に実施されるものである。日本語は外国語必修科目の一つである。

日本語教育課程は、生徒が教師やクラスメートとの共同活動を通じて、徐々に基本的な総合言語運用能力を高めるプロセスであり、生徒に基礎的な日本語の知識と技能を習得させ、日本語でのコミュニケーション力をマスターさせ、生徒の自律学習および創造意識・協力精神を養うものである。そして、生徒が直接日本や世界を知り、理解する窓口を開くためのもので、中日両国の文化の異同を理解することを助け、国際的視野を広め、愛国主義精神を養い、生涯を通じての学習と成長に良好な基礎を築くものである。

二、教育課程の基本理念

(一)共通の基礎を重視し、発展の土台を築く

高等学校での日本語教育課程は全ての生徒に向け、義務教育の基礎の上に資質教育を継続して行い、21 世紀の国民が備えるべき基本的な外国語力を持つ生徒を育成し、実際の日本語運用能力を高めることに重点を置く。また進学・就職・生涯学習および日本語応用のための基礎を固める助けとなり、生徒が他人とコミュニケーションをとり、協力する能力

を伸ばし、文化を越えたコミュニケーション意識を高め、愛国主義精神と社会への責任感を高め、持続可能な成長のための土台を築くものである。

(二)多様な選択肢を提供し、人生計画を重視する

高等学校での日本語教育課程は、社会と生徒の様々な需要を重視し、多様で、段階にあわせた総合課程の構造をもち、全ての生徒が共通の基礎のもとで、自主的に個性と潜在力に合わせた学習内容を選択できるものである。同時に、生徒にその中から学ばせ、人生計画を立て、自己発展する能力を高めさせ、社会の需要と未来の発展に適合させる。

(三)課程の内容を精選し、実用性を奨励する

高等学校の日本語教育課程では、教科に対してのシステムの完全性を過度に求めず、基礎を精選することに重点をおき、時代の発展を反映し、生徒が生活の中から学べるような課程内容に近づけることが望ましい。ある話題を基に行うコミュニケーションタスクなど多様な教育活動を展開し、情報を得て処理し、問題を分析し解決する能力を高める。生徒が授業内外、および国際交流活動などで積極的に日本語で表現と交流をするように奨励する。

(四)最適な学習スタイルを形成し、自律学習を促進する

高等学校の日本語教育課程では、生き生きした学習環境や活発で楽しい雰囲気を作ることにより、すべての生徒が日本語学習に参加できるようにし、教師の指導のもとで自ら知識体系を構築することを提唱する。教育の活動において生徒の心身、知能の発達に関心を持ち、生徒が想像力や創造力を発揮できるよう考慮し、探究しながら学べるよう手助けする。そして、観察・模倣・体験・探求などの学習プロセスの中から多くの事を学び、学習ストラテジーを形成するよう指導し、多種多様なメディアや情報リソースを活用し、学習の窓口を広げていき、個性のある学習スタイルを形成していくように生徒を指導する。

(五)評価体系を改善し、生徒の成長を促進する

高等学校の日本語教育課程は、生徒の成長を促すような多面的な評価体系を取り入れる。主には形成的評価と最終評価を互いに結びつけた方法を取り、生徒が身につけた日本語の知識や技能を評価するほか、日本語のコミュニケーション能力や情意・態度、物事に対する価値観なども評価の対象となる。評価する場合、生徒の個人差を尊重し、評価の内容や情報などを適宜に生徒へフィードバックすることも必要で、それにより生徒が自分の学習目標や学習ストラテジーを調整し、日本語を学ぶ上での自信を持ち、絶えず向上しようと

努力するために役立てる。

(六)最新技術を利用し、学習リソースを充実させる

高等学校の日本語教育課程は、最新の技術を日本語教育に取り入れていくこと、及び学習リソースの開発と開放を重視し、少しずつ教科書や教室を中心とした授業形式を変えていく。教師はその場に応じたやり方で、創造的に教材を授業に生かし、マルチメディア教材を授業にうまく取り入れ、教室内外で多彩な試みを行うことが必要である。条件がそろっている場合、インターネットを利用して日本語の情報を入手し、ネット上で日本語による交流などの活動を生徒にさせることも奨励する。

三、教育課程の基本構想

『国家基礎教育課程改革概要(試行)』に基づき、また国内外の外国語教育改革の成果を参照し、高校生の心身の成長に伴う特徴も考慮し、高等学校段階での日本語教育課程の目標を「生徒の基礎的な総合言語運用能力を育成する」と定め、その全体の枠組みとレベル別の分け方は義務教育段階と同様である。レベルは図1に示した通りである。

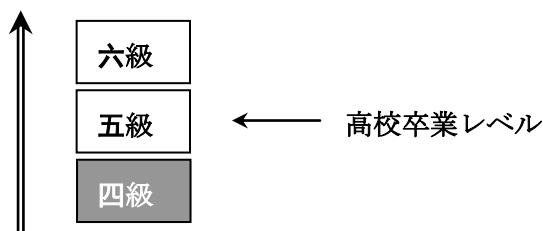
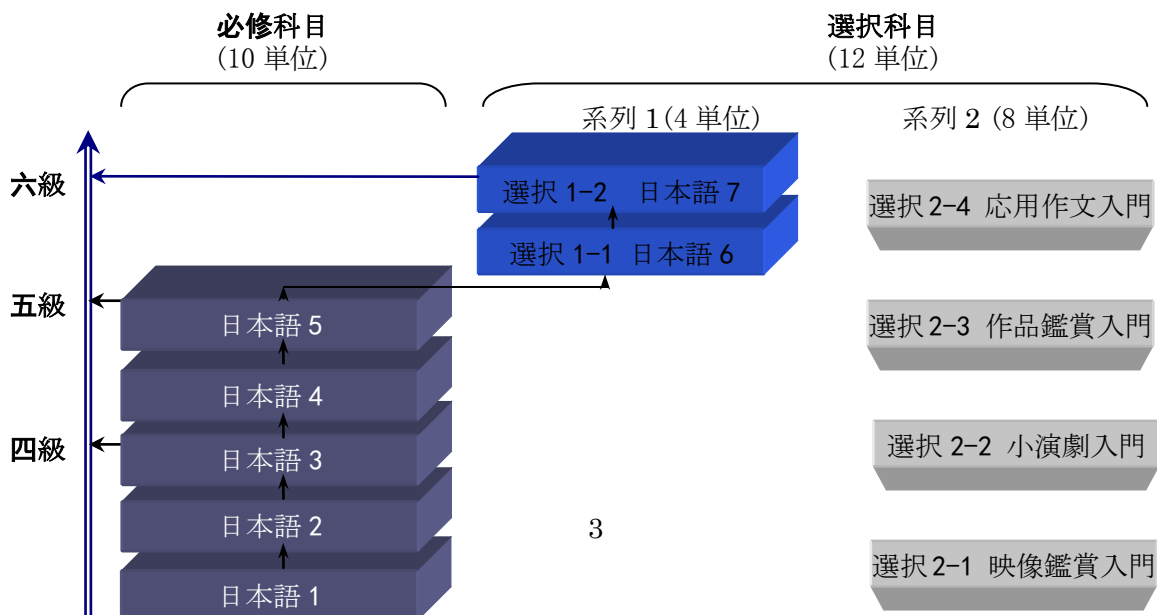


図1 高等学校の日本語レベル分け

高等学校の日本語教育課程は「必修科目」と「選択科目」とに分かれており、11の学習モジュールがあり、各モジュールの履修単位と授業時間は等しく、すべて2単位で、36時間である。詳細は次の図の通りである。



高等学校日本語課程の構成

(一)必修科目

必修科目は、高等学校卒業までに履修しなければならないカリキュラムで、日本語 1～5 という五つのモジュールで構成され、高等学校 1 年から授業を開始し、合わせて 10 単位で計 180 時間である。各モジュールは段階を追って授業を進めていき、順序どおりに学ぶようにできている。

日本語 1～3 は、『普通高等学校日本語課程標準(実験)』(以下、『標準』と略称する)の規定では 4 級レベルに相当し、日本語 4～5 は 5 級レベルに相当する。5 級は高等学校卒業レベルである。下記のような状況の者は、部分的あるいは全ての必修科目の免除願いを申請できる。

1. 4 級試験の合格者で、日本語 1～3 を未修あるいは履修を終えていない生徒は、部分的あるいは全ての履修の免除願いを申請できる。

2. 5 級試験の合格者で、日本語 4～5 を未修あるいは履修を終えていない生徒は、部分的あるいは全ての履修の免除願いを申請できる。

必修科目は「言語知識」「言語技能」「文化的素養」「情意・態度」と「学習ストラテジー」の角度から課程目標と内容標準を導き出し、外国語教育が更に学習プロセスを重視し、学習者の潜在資質の形成及びレベルアップに努めるようにする。必修科目の学習を通して、生徒はいつそう日本語で情報の収集能力・処理能力および自律学習能力を高め、文化的素養・国際意識・愛国主義精神を強め、健全な人生観を形成していく。必修科目の設置は教育課程の基礎性と時代性を呈示するものである。

(二)選択科目

選択科目は進学、知識の拡大、より高い技能の習得、興味を深めるなどの目的で設置されるもので、系列 1 と系列 2 で構成される。

系列 1 は、日本語 6～7 で構成されており、『標準』の 6 級に相当し、4 単位で、72 時間である。日本語に対して興味を持ち、引き続き学習したい者が 5 級に合格した上で順次この系列を選択して履修することを提案する。

系列 2 は、“映像鑑賞入門”、“小演劇入門”、“作品鑑賞入門”、“応用作文入門”の四つのモジュールで構成される。各モジュールはレベル別に対応するのではなく、生徒の好みに応じて選択し履修することが可能である。生徒の学習に対する興味と、特定の技能を育て

ることに重点をおいており、8 単位で、144 時間である。各学校は、実際の状況により系列 1 より先に系列 2 の科目を一部開設することができる。また、条件を整え、できるだけ系列 2 の科目の全てを開設し、生徒の異なる需要を満たし、それぞれ個性のある成長を促進する。

その他に、各地域あるいは各学校で『普通高校課程方案』の規定と実際の授業での必要に応じて「自由選択」の科目を設けることもできる。これは日本語科目の特殊性を生かし、生徒の学習意欲、能力、社会の需要と結び付けたもので、例えば「ビジネス日本語」「インターネット用語」「秘書日本語」「日本文化」「日中翻訳入門」「第二外国語」などである。これらの科目は『標準』の定めるレベルとは関係がない。選択科目の設置は教育課程の選択の広さを呈示するものである。

日本語科目を第二外国語として開設する場合、義務教育段階のレベルを参照し、生徒の日本語学習に対する興味を育てることに重点をおき、生徒の国際視野を広げ、文化を越えて理解する意識を高めるようにする。

(三)「課程目標」及び「内容標準」における行為動詞の説明

『標準』の「課程目標」と「内容標準」は、大きく達成目標と体験目標の 2 方面から述べてあり、各目標は 3 つのレベルに分かれている。それぞれ別の行為動詞を用いることにより、生徒がある程度学習した後の言語行動の変化や学習の達成レベルを具体的に呈示するものである。下の表は「課程目標」及び「内容標準」の中で使われる主な行為動詞である。

目標 分類	レベル 段階	行 為 動 詞
達成 目標	知る 理解	知る、言う、暗唱する、見分ける、識別する、復唱する、思い出す、返事する(反応する)、理解する、読んで分かる、聞いて分かる、推測する、予測する、判断する、読解する、把握する、区別する、明確にする
	真似 実践	真似る、認識する、復唱する、伝達する、朗読する、表現する、書く(ノートする)、(交流活動)する、取材する
	応用	質問する(情報を知る)、依頼する(助けてもらう)、伝達する、述べる、把握する、選択する、まとめる、整理する、書く、書き直す、書き込む、改作する、提案する、議論する、得る、引き出す、描写する、分析する、解決する
体験 目	経験	経験する、感じる、参加する、関わる、試みる、ディスカッション、議論する、会話する、交流する、表現する、協力する、接触する、体験する、体得する、利用する、運用する、使用する、取り決める、評

標		価する、モニターする、取り組む、実施する、鑑賞する、選択する、鍛える
	反応	知る、分かる、希望する、喜ぶ、興味を持つ、関心を持つ、尊重する、克服する、助ける、力を合わせる、調整する、修正する、打ち明ける、解決する、維持する、総括する
	会得	形成する、体得する、愛する、打ち立てる、堅持する、保持する、確立する、有する、築き上げる、明確にする、協調する、分かち合う、促す、高める、創造する、建造する、広げる、コントロールする

第二部 課程目標

高等学校段階での日本語教育課程の総体的目標は、生徒の基本的な総合言語運用能力を育て、生徒の生涯学習と健全な成長のための基礎を築くことである。総合言語運用能力の形成は、生徒の言語知識、言語技能、文化的素養、情意・態度、学習ストラテジーなどを総合的に発展させた基礎の上に成り立つものである。

言語知識と言語技能は、話題を基に行うコミュニケーションなどの教育活動により、少しずつ言語運用能力を育てる基礎である。文化的素養は適切なコミュニケーションをとるための前提である。情意・態度は生徒の学習と成長に影響を与える重要な要素である。学習ストラテジーは、学習の効率を高め、自律学習能力の向上を保証するものである。これらは、図 2 に表したように、互いに関連し合い、日本語科目の総体的目標の枠組みを構成している。

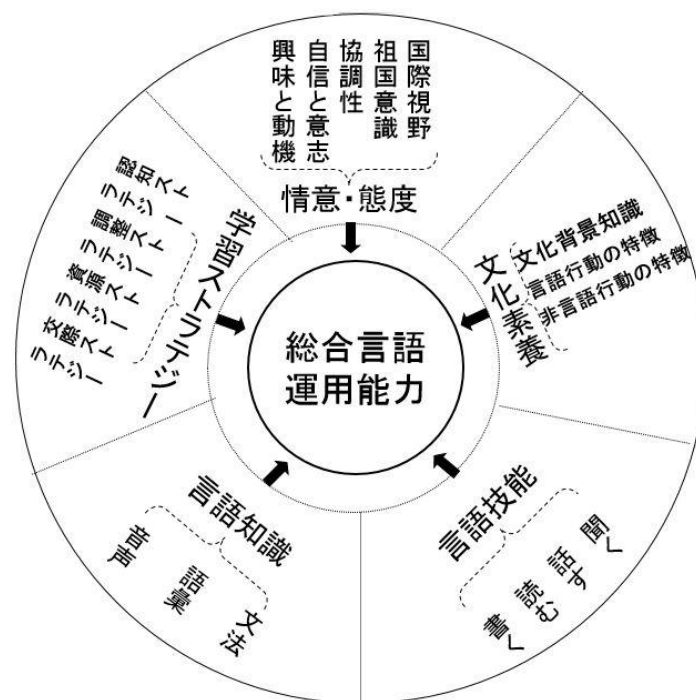


図 2 日本語科目の総体的目標の枠組み

高等学校の日本語教育課程と義務教育段階は関連しており、4・5・6 級の三つのレベルの目標がそれぞれ設定されている。いずれも各レベル別に生徒の言語知識、言語技能、文化的素養、情意・態度、学習ストラテジーの 5 方面に対する総合的な要求を呈示するものである。以下は 4 級から 6 級に至るまでの段階的な目標である。

四級	・日本語を学習する動機が比較的はっきりしており、楽しく大胆に日本語で表現や交流をすることができる。 ・学習した範囲で見聞きした材料や文字教材の要点を理解し、自分の意思や観点を簡単に表せる。規範的なフォーマットに沿ってメモや簡単な短い手紙が書ける。なるべく正確で簡単に身近の人や事柄について紹介できる。 ・義務教育段階を踏まえ、コミュニケーションにおける言語及び文化の背景をさらに理解し、その言外の意味を体得する。 ・的確な学習プランを決めることにより日本語学習の効率を高めることができる。質問や手助けを求めることができ、教師の手助けのもと自発的に多様な実践活動に参加できる。
五級	・持続的に日本語学習の動機を持ち、積極的に日本語能力を高める各種活動に参加できる。 ・授業以外でも見聞を広め、資料の中から主要な情報を得ることができる。文字あるいは図表について簡単に述べられる。準備の上、熟知した話題を口頭陳述できる。 ・中日両国の自然、伝統的祝日、文化施設等の話題を簡単に話し合うことができ、より一層中日間の言動行動・非言語行動の違いや特徴を理解できる。 ・積極的に日本語を使う機会をつくり、協力して学ぶ雰囲気を作ることができる。強い自己コントロール能力を持ち、多様な資料を用い日本語学習を深めることができる。

六級	・強い自信と自律学習能力を持ち、いっそう祖国の言語文化に対する理解を深める。 ・日本語の新聞・雑誌にある簡単に短いニュースを読め、キーワードなど情報を得ることができる。熟知した話題あるいは事柄について簡単なインタビューや話し合いをし、問題解決の方法などを提案することができる。 ・地元あるいは自国の文化について簡単に話し合うことができ、コミュニケーションにおいて相手の感情を理解し、尊重しながら、適切な表現で対応し、中日間の文化の異同を理解することができる。 ・教師の手助けのもと多様な日本語の実践活動の企画や実行に関与することができる。自分の学習効果を評価でき、学習行為を調整しコントロールすることができる。
----	--

第三部 内容標準

高等学校の日本語教育課程でのレベル別目標について、『標準』は言語知識、言語技能、文化的要素、情意・態度、学習ストラテジーの5方面から具体的な標準内容を示した。その中で、「言語技能」は4～6級の標準内容を示しているが、「言語知識」「文化的素養」「情意・態度」と「学習ストラテジー」は、高等学校の全段階を通したもので、徐々に形成していく方向が望ましく、高等学校卒業と引き続き進学するための基本的な教育内容で、レベル別に分けることに適していない。これらは教育内容の融通性を示しているものである。

一、言語知識

発声	・通常のスピードと正しい発音・イントネーションで教科書を朗読し、正確に文章の表わしている感情を伝える。 ・イントネーションに基づき話し手の意図と態度を推測する。 ・コミュニケーション活動において、自然な発音・イントネーションで話し、割合なめらかで、正確に自分の意図あるいは感情を表現する。
語彙	・学習した言葉のコロケーションを掌握し、自分の考えを正確に表現する。 ・常用熟語や慣用語の一部をほぼ使えるようになる。 ・義務教育段階を踏まえ、さらに1500の常用語を学び、その中の1000語を身に付け、その基本的な意味や使い方を掌握する。
文法	・文法知識を生かし、文章にある比較的長く難しいセンテンスを理解して、文章の主旨をとらえる。 ・場合や相手によって、異なるボイス・人称制限のある表現や省略文などを正しく使用する。 ・既習の文法知識で文を組み合わせ、ほぼ正確に自分の考えを表現する。

二、言語技能

レベル別	聞く	話す	読む	書く
四級	- 授業で教師の出す要求と指示が分かり、それに対する反応ができる。 - 叙述文などのヒアリング教材の内容を通常より少し遅いスピードで聞いて理解し、事柄の発生時間・場所・主要人物や事情を理解できる。 - 教科書より難度が低い視聴覚教材から、主要な情報と観点を聞き取れる。	- 学習したコミュニケーション表現を用いて発音やイントネーションが正しくクラスメートや教師とスムーズにコミュニケーションできる。 - 話題や情景に基づいて簡単な会話ができる。 - 情報や手助けを求めたりすることができる。 - コミュニケーションの必要性に応じて、簡潔に自分の考え方や見方を表現できる。	- 文脈から言葉の意味と文章の各センテンスの関係を理解できる。 - 辞書などを用いて既習した難度に相当する文章を読んで理解でき、主要な情報を得ることができる。 - 読む目的によって、読解方法を変えて情報を得ることができる。	- メモや簡単な手紙が書ける。 - 簡単に人物あるいは出来事の筋を描写できる。 - 絵や図で提示した場面にに基づき、ほぼ完全に会話や短い文章を書くことができる。
五級	- 授業中、相手の出す要求と指示が分かり、それに対する反応ができる。 - 熟知した話題の内容を聞いて分かり、異なる話し方や態度をほぼ見分けることができる。 - 出来事の経過や人物に対する描写をほぼ理解できる。 - ヒアリングしながら要求に応じたメモを取ることができる。	- 自分の言葉で、発音やイントネーションが正しく本文の内容を復唱できる。 - 授業内のディスカッションで簡単に自分の態度や観点を表せる。 - 準備のもとに、熟知した話題を簡単に比較的順序よく口頭発表することができる。	- 文脈から事態を予測したり、事情の展開を読み取ったりすることができる。 - 辞書などを用いて、既習より多少難度のある文章から主な情報を読み取り、文章の主旨を理解して、作者の意図を読み取れる。	- 文字あるいは図表で情報を提供し、簡単な叙述文を書ける。 - 内容を整理し、既習した難度に相当する文章に書き直せる。 - 個人情報に関する申込み表や履歴書などを記入することができる。 - グループで本文の物語を寸劇などに書き直すことができる。
六級	- ヒアリング教材や談話を聞いた中から、相手の見解を判断し、話し手意図あるいは態度を正しく推測できる。 - 授業内のディスカッションで、異なる意見を理解し、メモをすることができる。 - 言葉の中の重要な情報を識別し、簡単な推定ができる。 - よく使われる婉曲的な提案や勧めが分かり、それに応じた反応ができる。	- 自分の言葉で、発音やイントネーションも自然に、聞いたり読んだりした内容を復唱することができる。 - コミュニケーション活動において、適切に表現したり質問したりすることができる。 - 自分の態度や観点や提案などを表せる。 - 熟知した話題について簡単な取材をすることができる。	- センテンスの構造を分析することで難文・長文を理解することができる。 - 既習内容に関連のある日本語の新聞・雑誌を読んで、ニュースなどから主要な情報を得られる。 - 教師の指導のもと、分かりやすい日本語の文学作品を鑑賞できる。	- 文章あるいは図表で情報を提供し、短文や短いレポートを書くことができる。 - 既習した言葉を生かし、自分の観点や、他人の観点を伝えることができる。 - 熟知した話題や事柄について、自分の態度や感情で表現することができる。

三、文化的素養

文化背景知識	・日本の高校生の学習や生活の基本状況を知っておく。 ・日本人の日常生活と習慣の一般状況を知っておく。 ・より深く日本の風土や人情を理解する。 ・より深く日本の社会概況を理解する。
言語行動の特徴	・日本語の待遇表現の特徴を知っておく。 ・日本語にある敬語の表現を知っておく。 ・より深く日本語の感謝する・謝る・賛成する・断るなどの言い方の特徴を理解する。 ・より深く日本語のコミュニケーションでよく使われる婉曲的、含みのある表現、省略の言い方などの特徴を理解する。
非言語行動の特徴	・日本人が話し合う時の視線、手振り、身ぶりなどの特徴を知っておく。 ・日本人が話し合うときの双方の距離感を知っておく。 ・日本人のコミュニケーション場面にあわせた服装ルールを知っておく。

四、情意・態度

興味と動機	・日本語学習を持続したいという意欲と興味を持ち、日本語能力を高めるための学習活動に積極的に参加する。 ・日本語学習への適切な動機があり、学習目的を明確にする。
自信と意志	・自発的に日本語を使ったり表現したりし、人と交流する。 ・日本語を用いたコミュニケーションで、成功する喜びを体験し、自信を強める。 ・日本語学習で直面した困難を克服し、意志を鍛え強める。
協同精神	・日本語学習における様々な活動の中で、積極的にクラスメートと協力し、力を合わせ、協同精神を持つ。 ・日本語学習で、他人と各種学習リソースを共有し、互いに向上し合う。
祖国意識	・日本語学習を通じて、母国語や自国文化への理解をより深め、祖国を愛する心を持つ。
国際視野	・日本語学習を通じて視野を広げ、異国の文化を尊重し、より強い国際意識を持つ。 ・日本語コミュニケーションにおいて、相手の感情を理解し、お互いに尊重し、礼儀正しく表現できる。

五、学習ストラテジー

認知ストラテジー	・リスニングやリーディングにおいて、場面や文脈により意味あるいは段落の要点を推測できる。 ・図表などで非言語情報を理解したり表現したりできる。 ・学習プロセスの中で、ポイントをうまく捉え、ノートをしつかりとり、推理やまとめなどの方法で出会った問題を分析して解決する。 ・連想や思考により、知識と知識・技能と技能・知識と技能の関連を作る。 ・学習目標の制定・学習効果の評価・自己評価問題作りなどに参与することにより、学習した知識と技能を身に付ける。 ・記憶の規則に従って、記憶の効果を高める。
調整ストラテジー	・学習するなかで困難な事に直面した場合、効果的な解決方法を探し求める。 ・日本語学習の体得を教師やクラスメートと積極的に交流する。 ・様々な環境の下でも集中して学ぶことができる。 ・活動を記録したカードなどを通じ、自己テストや試験の結果を自らにフィードバックさせ、自律的・客観的に自分の学習効果を評価する。 ・自分の学習プロセスをモニターし、学習行為を改善しながら、効果のある学習方法をまとめておく。

資源 ストラテジー	・ 自発的に学習に集中できる良好な環境と条件を作り出す。 ・ クラスメートと良い関係を構築し、共同学習に良い打ち解けた雰囲気を作るようにする。 ・ 自発的に日本語学習の幅を広げ、日本語を学ぶことと運用する機会を作り出す。 ・ 図書館、ラジオ、テレビ、インターネットなどを有効に利用し、さらに広く日本語の情報を得られるようにする。
交際 ストラテジー	・ コミュニケーションにおいて、多様な会話の仕方を利用することで言語の障害を克服し、コミュニケーションを持続させる。 ・ 手振りや表情などの非言語手段を使い、コミュニケーション効果を高める。 ・ コミュニケーションにおいて、相手が受け入れやすい言葉や行為などを選ぶように注意する。

第四部 実施提言

一、授業提言

(一)授業の注意事項

1. 教育観を更新し、新教育課程に従う

高等学校の日本語教育課程を実施するなかで、教師は生徒の向上心と合致した教育観を樹立し、教師を中心に教科書の知識を伝達することを目的とした一方的教育方法を改め、知識の伝達者から生徒の学習の促進者・指導者・組織者・支援者・参加者・協働者となり、教育プロセスを教師と生徒の相互交流のプロセスとなるようにする。このために、教師は自らの教育水準と専門的力量を高め、自身の知識構成を改善し、常に教師間の協働や研究において共に振り返り・支え合い・学び合いを行い、教育課程を創造的に実施し、自身を創造精神を持った研究型教師とし、時代とともに発展し、絶えず開拓していくべきである。

2. 生徒の生涯学習のために基礎を確立する

高等学校での日本語課程の必修科目は、すべての生徒のために総合的な言語能力をつける基礎を確立し、生徒の日本語における知識へ探究心を育てることに重点を置き、日本語で情報を取得したり処理したり伝達したりする能力を養う。生徒が興味を持ち問題を探究する環境を作り、その問題を解決させることにより、実際のコミュニケーションの中で適切な日本語を使うことを勧めていく。教師は生徒の基礎学力・言語能力の水準や向上度合いの異なることを認め、様々な生徒の要求を満たし、彼らを共に成長させていくことが大切である。

3. 多様な選択肢を与え、選択科目に対する指導と実施を強化する

選択科目を設置する主な目的は、生徒のために多様な選択の余地を与えることと、個性を育てることにある。選択科目は生徒の知識を広げることに有益であり、彼らの人生プランに実践を伴う機会を提供することができる。このため、学校と教師は選択科目の主要内容を充実させ、特徴ある科目を取り入れ、生徒が自主的に授業を選択できるよう指導し、授業を選ぶことが自分の学習要求を満たすということだけでなく、人生のプラン設計を立てるということも彼らに学ばせる。選択科目の授業内容と教授法は、課程目標と生徒の要求に合わせたもので、教師が自分の興味本位や、適当な知識だけに任せて授業を行うべきではない。選択科目と必修科目は、共に生徒の日本語の素養の育成を促進し、広く展開させ、また実効性を考慮しなければならない。内容の相互補完に注意し、内容の繰り返しや難度のバランスに配慮する必要がある。選択科目の履修の中で系列1は、必修科目の基礎の上より高い生徒の言語運用能力を持続させる。系列2と“任意選択”科目の設置は、授

業の実情から発展させ、社会発展と需要を全体的に考慮し、生徒の学習願望と学校の教育条件を徐々に満たし、特色あるやり方を形成していく。

4. 活動型教育を展開し、実際に近い日本語環境を造り出す

『標準』は、ある話題を基に行うコミュニケーションタスクなど多様な授業をすることを提唱する。授業の構想は話題から導き、実際に近い日本語環境を作り出し、開放的なタスク型活動と探究性のある学習内容を強化し、生徒に自分の見方と観点を表現する機会を持たせ、彼らの想像力と創造力を育てる。教師が努力して楽しいゆとりある雰囲気を作り、生徒に日本語を用いて調査・取材・ディスカッション・交流・協力などを学ばせ、彼らの学習に対する自信を強め、より高い学習意欲と、自主学習能力を育てる。

5. 学習ストラテジーの指導を強化する

日本語教育課程では、生徒が自主的に知識の構築ができるよう教師の指導と援助を提唱する。常に生徒と一緒に効果的な学習プロセスを振り返り、生徒が客観的に自分の学習状況をとらえられるよう援助し、学習行為を適当に調整し、有効で自分に合う学習ストラテジーを身に付けるようにする。授業で、生徒が自発的に日本語に関心を持つよう指導し、日本語の決まりごとを気づかせ、生徒が観察・体験・ディスカッション・実践およびクラスメートなどと習得の成功を分かち合う場と時間を与える。教師は生徒が教科書以外の学習リソースを積極的に利用し、言葉を習得できるよう導き奨励していくほか、学習での困難を解決していく。多様なコミュニケーションの場を活用し、生徒が人とのコミュニケーション能力を持てるよう育てる。

(二) 内容標準における指導提言

1. 言語知識

一定の言語知識を掌握するのは、コミュニケーションをとる上で必要条件である。言語知識には音声、語彙、文法などの教育内容が含まれる。

(1) 音声教育

- ① 音声教育は理解した上で、アクセント・イントネーション・ムードの模倣を提唱する。
- ② 授業の中で、生徒のアクセント・イントネーションについて適切に指導する。
- ③ 日本語の漢字の読み方を理解できるよう指導する。

(2) 語彙教育

① 単語だけを他と切り離して説明することは避け、生徒が単語のコロケーションに注意し、言葉の機能・使用条件など、語構成の規則を掌握し、センテンス・段落・文脈の中で単語の働きを理解して使える能力を育てる。

② 実際の需要や生徒の認識能力によって、生徒が連想などの学習ストラテジーを使い、語彙量を増やせるよう指導する。

③ 学習した語彙を適時に総括し、できるだけ再活用できるようにする。

④ 様々な方法で母国語の正転移を促し、生徒が日本語と中国語の異同を理解するように指導する。

(3) 文法教育

① ただ無意味に単調で機械的に訳す方法などの文法解説は避け、文法機能や言葉の使い方などに気をつけて教える。

② できるだけ実際のコミュニケーションの状況の中で文法知識を解説し、生徒に少しづ

つ正しい文法の使用方法を掌握させる。

③基礎訓練に注意し、学習した文法ルールなどをタイミングを見て改めて総括する。

2. 言語技能

言語技能は、総合言語運用能力を構成する基礎の一つである。主に「聞く、話す、読む、書く」という四つの技能から成る。教師は授業内容の違いに応じて、多様な授業を考案し、コミュニケーションによる授業を通して、生徒のより高い日本語の能力を育てる。

(1) 聞く

①生徒が積極的に「聞く」行為を十分に引き出し、日常できるだけ多く日本語を聞く習慣をつける。

②生徒が問題を持って聞くように指導し、生徒の知識の背景にあるものをより生かす。

③生徒が言語環境から事柄の順序、あるいは論理との関係を確認するよう積極的に導き、話しぶりやムードから話し手の意図あるいは態度を理解し、おおまかな話の要点を把握できるなど、生徒の推測力や判断力を育てる。

④生徒がキーワードやキーセンテンスを探して分析し、情報のポイントを捉える能力を養う。

⑤日本語表現の特徴を分析できるよう導き、生徒の聴解力を高める。

(2) 話す

①授業の雰囲気を楽しくし、すべての生徒が積極的に「話す」よう充分に引き出す。

②生徒が熟知した内容・興味を持つ話題などに関連させ、実際の生活上でのコミュニケーションに近い場面を作り、問答・復唱・会話・口頭で報告するなどの形で、生徒が日本語を話す機会をできるだけ多く提供する。

③生徒が既習日本語の知識を生かせるよう注意し、適切な複文で自分の観点を表現でき、つながりよく話す能力を高める。

④生徒が日本語を間違ったりしても寛容な態度をとり、練習や実践などで異なるケースに合わせて適切に誤りを訂正する。

⑤生徒に「話題を引き出す」「話題を変える」「会話終了時の話し方」など会話のスキルを取り入れるよう指導する。

(3) 読む

①生徒が様々なルートを通して読解量が増加するよう奨励し、大まかに読み取ることをマスターし、情報を収集するよう指導する。

②読む練習の前に、できるだけ関連している背景の知識を紹介したり、生徒の持つ知識をより生かしたりし、生徒が読み物の要点を把握でき、仮説を立て、推測や判断する能力を養う。

③生徒が問題を持って読むよう指導し、キーワードを捉えるよう導き、文章にある事実と観点をはっきり見分け、主旨をとらえ、より効果的な情報を捉える能力を育てる。

④生徒が読解する文章の論理や意図を推察し、作者の思想や感情を体得し、読解力を高めるよう指導する。

⑤生徒の黙読習慣を育成し、読解の速度を高める。

(4) 書く

①「書く」前に、生徒に検討させ、「書く」が「聞く」「言う」と結びつくようにする。

②「書く」練習をするとき、生徒が既習日本語の知識をできるだけ使い、辞書や資料を調べたうえで文章を書くよう導く。

③様々な様式の文章を書く練習するようにし、文章を書く基本的な型をおおまかに捉え、

フォーマットにそって文章を書き、日常使う表現方法、単語、文章記号を選択して使用するよう指導する。

④国語で学習した文章の書き方を日本語の作文でも柔軟に生かし、生徒が文章を書くときの表現能力を高める。

3. 文化的素養

文化的素養は主に文化背景の知識、言語行為の特徴、非言語の行為の特徴の三つの方面から構成される。文化的素養の育成は、日本語教育の実践活動の全体を通して養ってゆくものである。

(1)生徒が教材・書籍や雑誌・映像作品および関連する日本語のウェブサイトなど様々なルートを利用し、絶えず日本文化の知識を蓄積し、中日間の文化の異同に対する意識を深めるよう指導する。

(2)生徒が中日交流と日本社会の中で発生した重要な事件に関心を持ち、日本に対する理解を増していくよう指導する。

(3)写真・映画やテレビ映像作品・マルチメディアなどを取り入れた多様な方法を通して、日本語の言語行為の特徴・非言語行為の特徴に対する感性的な認識を強めるよう指導する。

(4)具体的な教育内容によって、意識的に中日文化に関連したディスカッションを設定し、生徒が日本語を多く用いて発言できるよう手助けする。

4. 情意・態度

情意・態度面の育成は、日本語を学ぶことへの興味と学習意欲を呼び起こすことや、自信を確立し、意志を鍛え、協調性や祖国への意識を育て、国際視野を広め、正しい人生観と価値観などを確立することにより、日本語教育の実践活動で全体を通して行われるものである。

高校生の心身の発達に伴い、彼らの情意・態度・価値観に影響する要素も増えてゆく。生徒の情意・態度を育成する上で、下記のようないくつかの点に注意する。

(1)生徒が日本語をマスターする能力があることを深く信じ、そしてこのような信頼感を直接生徒に伝え、生徒に絶えず前進する力を与える。

(2)問題意識を起こす場面を作り、生徒に競争意識を持たせ、チャレンジ精神と困難を克服する力を育成する。

(3)すべての生徒の情意に注意を向け、良好な師弟関係を築き上げ、生徒との共感を求め、生徒間のインターアクションを促進する。

(4)生徒の個性を理解し、自分の特長を学習の中で存分に発揮できるよう、各生徒の個性の育成を促進する。

5. 学習ストラテジー

言語の学習ストラテジーには、主に認知ストラテジー、調整ストラテジー、資源ストラテジー、交際ストラテジーがある。認知ストラテジーは、生徒が学んだことの知識を記憶、整理、理解するためのストラテジーである。調整ストラテジーは、学習プロセスの中で自分の学習動機・情緒や態度を調節・制御するストラテジーである。資源ストラテジーは、生徒が学習プロセスの中で合理的に時間を利用し、効果的な環境をつくり出し、周囲の支持を積極的に得るためのストラテジーである。交際ストラテジーは、生徒が日本語を用いてのコミュニケーション活動を展開するうえで、困難を取り除き、交流を順調に行うためのストラテジーである。生徒の学習ストラテジーを育成するには、下記のようないくつか

の点に注意する。

(1)学習ストラテジーの養成は具体的な日本語教育に沿って行うべきもので、言語知識や言語技能の教育や、コミュニケーション能力の育成から離れ、孤立しないよう注意する。

(2)学習ストラテジーが成績を高めるのにつながることを生徒に実感させ、生徒が自発的にストラテジーの有効性を確認するよう指導し、生徒が自らの学習行為をコントロールする能力を育てる。

(3)学習ストラテジーの養成は、生徒にストラテジーの具体的な内容だけを教えるのではなく、様々な機会を提供し、生徒が実際に使い、応用力をもち、ストラテジーを使う条件を理解させ、自律学習の能力を育成することが大事である。

(三)教育実践例

付録五を参照

二、評価提言

評価は日本語教育課程の重要な構成部分である。科学的な評価体系は課程目標を実現させるための重要な保証である。評価の目的は生徒に日本語学習の中で絶えず進歩と成功を体験させることで、生徒の総合言語運用能力を高める同時に、教師には日本語教育のフィードバック資料を与え、授業内容や授業方針を調整する材料となる。

日本語教育課程の評価体系は、評価主体の多元化・評価方式の多様化・評価目標の多層化を具体化しているもので、評価は生徒の日本語能力の成長と学習効果に配慮し、学習プロセスと評価結果の調和がとれるように統一したものである。

(一)評価注意事項

1. 評価主体を多元化し、生徒の健全な成長を促進する

評価主体の多元化は開放的で、ゆとりのある評価の雰囲気をつくり、生徒・クラスメート・教師・保護者・学校が共に評価への参与を奨励することで、全面的に客観的に生徒の進歩を評価し、生徒の健全な成長を促進することである。その中で生徒は評価の対象でもあり、評価の主体でもある。生徒は自己評価をすることで、自分の学習状況を把握し、自分の長所を見つけ、不足している部分や問題点に気づき、解決する方法を探し出し、自分でコントロールすることで自信を深め、絶えず学ぶことへの興味を持つ。生徒間での相互評価では、教師は生徒たちが相手の長所を見出すよう指導し、全ての生徒に対する評価は励ましを中心にし、保護者は主に家庭での学習状況と進歩を評価し、学校側は生徒の成長に応じて総合的・客観的な評価をすることが望ましい。

2. 評価方式を多様化し、評価目標を多層化する

『標準』では、評価について以下のことを提唱している。即ち形成的評価と最終評価を結びつけるが形成的評価を主とする、定性評価と定量評価を結びつけるが定性評価を主とする、他者評価と自己評価を結びつけるが自己評価を主とする、総合評価と項目評価を結びつけるが、総合評価を主とするものである。

評価をする際、生徒の認識能力や性格の特徴の相違などに注意を払い、多様な評価方式、様々な段階の目標を設定し、生徒が自分の長所を充分発揮し、レベルの異なる生徒全てに機会があり、学習に対する喜びを感じ取り、日本語をマスターする自信を持たせるようにする。

3. 形成的評価は生徒の成長を励まし促進することに重点を置く

形成的評価は、日常の学習プロセスでの生徒の成績、感情・態度、学習ストラテジーなどの進展状況に対して出される評価である。ポートフォリオ・アンケート調査・学習の自

己評価・保護者による生徒の学習状況の評価・教室での活動や各種テストを行ったものを分析し、段階ごとのテストなどを実施する方式で評価を行う。形成式評価は口頭による叙述式でもよく、等級や点数などで評価する形でもよい。叙述は丁寧で具体的に生徒個人の違いを反映させるものであり、等級や点数は生徒が達成感を得られ、問題点を探し出せるようなものでなければならない。どのような方式にしても、生徒に対して学習を奨励し、進展させることを重視しなければならない。

4. 最終評価は生徒の総合言語運用能力の考査に重点を置く

最終評価は、学期末試験や卒業試験などの定量評価を採用して行い、言葉による評価を取り入れても良い。学期末試験・卒業試験は、科学的・全面的に一時期の生徒の言語レベルの進展状況を考査するものであり、形式は主に口頭試問・ヒアリング・筆記試験などによる。口頭試問は生徒の表現能力のほか、適切な発音など音声技術をマスターしているか、イントネーションは正しいかをみることに重点をおく。ヒアリングは生徒が意味を理解し、情報を正しく得ているかに重点をおく。筆記試験は具体的な言語環境に応じた応用型問題を増やすことが望ましい。更にタスク型の授業活動と結び付け、調査レポートや口頭報告の方式などで、生徒の総合言語運用能力を検査・測定する。

5. 項目評価と総合評価を結びつけ、総合評価を重視する

項目評価は主に各種の言語技能(聞く・話す・読む・書く)と言語知識(音声・語彙・文法)の評価を含むものである。学習のプロセスにおいて、生徒の言語知識・言語技能を評価することが必要であるが、更に重要なのは生徒の総合運用言語能力を評価することである。総合評価は項目評価を合わせたものではなく、言語知識・言語技能の運用や文化的素養・心理的資質を含むコミュニケーション能力も全体的に評価するものである。

6. 評価は必修科目と選択科目のそれぞれの特徴を具現すべきである

高等学校の日本語教育課程は必修科目と選択科目の2種類のタイプに分かれる。評価する際は、相互の関連と共に、両者の様々な特徴に注意する。必修科目の評価は共通の基礎に基づくものであるが、選択科目の評価は相違性と多様性を重視するべきである。考えの筋道を広げ、伝統的・型通りの評価を打破し、活発さを探求するよう努力し、柔軟で多様な評価方式を試みる。例えば小論文・実験報告・観察記録・教室での発表・特定のテーマに沿ったスピーチ・ディスカッション・表現など、成績の記録は様々な方式の組合せを試みるのが望ましく、課程目標の実現を促進していくものである。

7. 評価結果を即時フィードバックし、授業内容や教授法を調整する

教師は評価の結果が生徒の学習にどんな影響を与えたかに関心を持つべきである。ポートフォリオ・各種試験・評価のデータなど、生徒の学習の効果に対して評価を行い、生徒が授業内容を掌握した具合や学習進展の状況をフィードバックすることも必要である。同時に教師は評価結果を客観的真剣に分析・研究し、授業の中に存在する問題点や原因を探し、どのような教育プランや、授業法が生徒に歓迎されるか考え、評価が生徒の自主的な成長を促すようにしなければならない。教師はすべての生徒の具体的な状況によって評価結果の判断をし、問題の解決方法を探し出し、教育の内容と方法を調整していかなければならない。

8. 合理的で適切な評価手段を用いて実効性を重視する

教師は教育プロセスにおいて、教育の需要に基づき創造的様々な評価ツールを開発・利用することを重視するべきである。形成的評価と最終評価の調整は、生徒の成績に占める割合を考慮し、両者を連動させ、全面的な教育の質を高める方面に作用するよう考慮する。評価の方式は簡単で明確なものが望ましく、細々して使用の際に紛らわしいプログラ

ムを評価に用いることは避け、授業時間を多く占有してはならない。評価の正確性と使用のタイミングに注意を払い、生徒に適切でない評価からくる心理的負担を与え、情緒不安定にさせることがあってはならず、評価が形式に流されることを防ぐ。評価の判定・選別を強調しすぎることは避け、生徒の成長を促進するような評価を行うべきである。

9. 評価は『標準』が規定する課程目標を根拠とすべきである

生徒に対する評価は、『標準』の定める課程目標とそれに応じたレベル別の目標を基準にすべきである。4 級の評価は地方の教育行政部門と学校などの組織が行い、形成的評価を主とする。5、6 級の評価は国家、省市の教育行政部門の指導のもとで実施する必要がある。選抜試験は『標準』の要求に従い、各地の状況と関連させ、どのレベルで行うか決定してから試験の基準を定める。

(二) 評価事例

付録 6 を参照

三、教科書編纂提言

高等学校の教科書編纂は、義務教育の段階に関連して、『標準』が提示した生徒の基本的な総合言語運用能力の育成目標に従い、生徒の学習のために設計したプランに基づき、できるだけ生徒の需要を満たし、生徒が認識・模倣・実践し、そして自発的に教育プロセスの内容を総合運用することができるように学習方式を改善し、より自主学習能力を高める。

日本語の教科書編集については、下記の原則に従うよう提言する。

(一) 思想性の原則

教科書の素材は厳選し、生徒が正しい世界観を持ち、人生観、価値観、愛国主義精神を育て、国際視野を広め、生徒の創造精神と実践能力を進展させ、生徒に中日文化の異同を理解するよう導き、生徒がより高度な識別能力をつけるよう指導する。

(二) 科学性の原則

教科書を編集する際は、日本語学習の規則に従い、順を追って、できるだけ発見・探求する方式を採用するようにし、教科書では、日本語の学習プロセスが現れ、学習方法にヒントを与えるようにし、生徒が自分の日本語知識を構築するのに手助けする。同時に「言語知識」「言語技能」「文化的素養」「感情・態度」「学習ストラテジー」を有機的に一体化させ、生徒の総合的な言語運用能力の育成を促進させるようにする。

(三) 趣味的原則

教科書は生徒の認識と心理の発展の特徴及び『標準』が設定した話題に基づき、できるだけ自然で時代感のある言語材料を備え、生徒を主体にして内容を念入りに構成し、実際に近いコミュニケーション場面や活動を作り出すことが望ましい。様々なテーマ・ジャンルを取り入れ、図表・マルチメディアなどの可視化した手段をできるだけ多く取り入れる。日本語教科書の形式は多様で時代感を反映するもので、生徒の日本語学習に対する興味や動機を維持するものが求められる。

(四) 融通性の原則

教科書に載る内容は、教育活動および教授法が比較的融通性を持ち、パターン化してしまふのを避ける。合理的に割り振られた基本課程の内容のうえに、地方・学校・教師と生徒が広く開拓する余地を残し、異なる地区・異なる文化的背景・異なるレベルの生徒の学習と成長に対するニーズに満たしていく。生徒のため開放的な体験活動や研究課題を計画し、日本語を使ったコミュニケーションの機会を増やしてゆくよう注意する。

四、リソースの開発と利用

日本語教育課程のリソースには、直接授業で使用する教材のほか、生徒が授業以外に接するもので、彼らの学習を伸ばすために効果的な学習教材や補助施設も含まれる。例えば、教科書・カード・練習帳・図表・教科書以外の読物・辞典・新聞・雑誌・映画・ドラマなどの視聴覚教材・マルチメディアソフト・インターネット・図書館・博物館などである。

(一)ハードウェアを配備し、施設を充分に利用する

教育行政部門と学校は積極的に設備投資を行い、教育のために必要なテレビやビデオ・コンピュータ・VCD・DVDなどのハードウェアの設備や視聴覚教室・図書館・コンピュータールームなどの施設を整備し、生徒のための利便性を図る。教師は教育目標と内容に基づき、教育プロセスの中で積極的に科学的かつ合理的に施設を使い、教育の効果を高める一方で、生徒が積極的にこれらの施設を利用し、自律学習能力を高めるよう奨励する。これらのリソースを開発・利用するうえで、各地の経済発展の水準や生徒の家庭状況を充分に考慮し、リソースの管理体系を効率よく作り上げる。既存のリソースは充分に利用し、リソースを遊ばせておく現象が起こることを防ぐ。

(二)積極的にコースウェアを開発し、インターネットを効果的に利用する

教師は意識的にコンピュータ・インターネットなどの近代的技術を利用し、マルチメディア教材を積極的に導入・開発し、授業内容を充実させるよう工夫する。生徒がコンピュータやインターネットを利用できるようにし、自分で必要に応じて学習内容を選択できるような環境を整える。条件の整っている学校は、自校の日本語教育のウェブサイトをつくり、インターネット科目を開設し、いっそう学習の開放性と多様性を持たせる。同時に、生徒に才智を発揮させ、教師と生徒は協力してコースウェアを作り上げてよい。コースウェアの開拓とインターネットの使用は、実際の教育のニーズを前提にして、偏った形式を追求することを避ける。

(三)無形のリソースを掘り起こし、リソースの共有を奨励する

日本映画やテレビ作品の鑑賞・日本の友達とのふれあい・日本関連の書籍などを読むことなど生徒の学習や生活経験は、すべて無形のリソースと見なすことができる。それ以外に、生徒の母語を使う経験も一種の無形のリソースである。教師は生徒の母語での知識を十分に利用し、半分の労力で倍の成果を得られるようにする。すべての生徒が自分の学習リソースを所有し、彼らが互いに交流できるよう奨励すべきであり、クラスの図書コーナーを設置することも良く、日本語のクラス新聞あるいは壁新聞などを作って、日本語の学習リソースを共有するようにする。

付録：

一、話題

領域	基本話題	内容提示
生活	個人情報	経験，性格，出身校
	日常生活	スケジュール，料理
	健康	病院，運動
	興味，趣味	読書，美術，ゲーム，カラオケ，旅行
	計画，理想	将来の夢・計画，進路
学校	学年，クラス	ホームルーム
	学習	好きな科目，共同学習，発表
	課外活動	部活動，スキット，弁論大会，ホームステイ
自然	環境	資源，環境保護
	地理	火山，地震
社会	文化	マナー，物語，文化遺産
	経済	会社，カード
	科学技術	ロボット，宇宙，未来社会，情報
	世界	異文化体験，国際交流，オリンピック，平和
	人物	科学者，歴史人物
	交流	文通，携帯電話，電子メール，交流会
	その他	身障者，老人問題，ボランティア，地域活動

注：1. 話題とは，教室内外における行われる学習活動の主題であり，生徒が日本語で話したり書いたりすることにより，コミュニケーションを行う具体的な内容である。上の表では，4つの「領域」，17の「基本話題」があり，「内容提示」欄に基本話題に関する一部の内容を挙げ，高校段階における日本語教室活動を計画する際に，参考に供する。

2. 高校段階では，中学校段階で習った話題をさらに深めて広げることできる。

二、コミュニケーション表現

表 1

場面	示 例
授業	・ (遅れて) どうもすみません。[自転車がパンクしてしまった] ので。 ・ ～さんは休みです。 ・ 私たちのグループは～について調べました。(それでは、～について発表します。) ・ (今日の)連絡です。
職員室	・ 先生、今よろしいですか。 ・ ちょっと教えていただきたいところ／ことがあるんですが、……
家庭/宿舎	・ 行ってきます。 ・ 行ってらっしゃい。 ・ ただいま。 ・ お帰りなさい。
食事	・ 何にしましょうか。 ――～がいいですね。
買い物	・ ～がほしいんですが。 ・ ～はありませんか。 ・ もう少し安くなりませんか。
道聞き	・ ちょっとすみません、～(へ)はどう行けばいいのでしょうか。 ・ あ、～ですね。[この道を]まっすぐ行ってください。 ・ 一つ目の信号を右に曲がってください。
道案内	・ ご案内します。 ・ こちらです。
電話	・ もしもし、～ですが、～さんいらっしゃいますか。 ・ すみませんが、～さん(を)お願いします。
手紙	・ ごぶさたしています。 ・ お変わりありませんか。 ・ どうかお体を大切にしてください。
司会	・ では、始めたいと思います。 ・ きょうは～について～たいと思います。
改まった場合の挨拶	・ [ご来賓の皆様]、～へようこそいらっしゃいました。 ・ 校長先生をはじめとする諸先生方、三年間本当にありがとうございました。 ・ これからもどうかわたしたちを温かく見守ってくださるようお願いいたします。
気分が悪い	・ ちょっと気分がよくないんですが。 ・ 食欲がないんです。

表 2

機 能	示 例
挨拶	・ 久しぶり。元気？ ・ お久しぶりです。
感謝	・ この間はどうもありがとうございました。 ・ (おかげさまで、) 助かりました。
別れ	・ おやすみなさい。 ・ お先に(失礼します)。 ・ (お)気をつけて。 ・ では、よいお年を。 ——よいお年を。
紹介	・ はじめまして、どうぞよろしくお願ひします。 ——こちらこそ、よろしくお願ひします。 ・ こちらは～さんです。
説明	・ まず、……それから、……最後に、…… ・ これから～について報告／説明します。 ・ [資料] をご覧ください。
教えてもらう	・ ちょっと質問があるんですが。 ・ ここがよく分からないんですけど。
尋ねる	・ 今度の[夏休み]はどうする。 ・ ～に[参加]しますか。 ・ ～は初めてですか。 ・ ～の印象はいかがですか。 ・ ～についてどう思いますか。
お願いする	・ あのう、ちょっとお願いがあるんですが。 ・ ～をお願いします。 ・ じゃ、お願い。
催促	・ 早く、早く。 ・ もう[10]時ですよ。
誘う	・ ～に行かない？ ——うん、行く／うん、いいよ。 ——ごめん。ちょっと～んだ。 ・ 行こうよ。
提案する	・ ～たらどう(ですか)。 ・ ～ほうがいいでしょう。
申し出る	・ お～しましょうか。 ——どうもすみません。(じゃ、お願いします。) ——いいえ、けっこうです。
許可	・ ～てもいい(ですか)。 ——ええ、どうぞ。 ——ええ、かまいません。 ——すみませんが、……ので。

賛成	・賛成です。 ・ええ、(わたしも)そう思います。
反対	・そうかもしれませんが、でも、…… ・それはそうだけど……
褒める	・大変勉強になりました。ありがとうございます。 ・[大したもんですね]。 ———そうですか(ノ)。ありがとうございます。 ———いいえ、そんなこと(は)ないです／そんなこと(は)ありません(よ)。 ———いいえ、まだまだです。
感激する	・感動しました。 ・うらやましい。
残念	・残念です／でした。 ・あっ、しまった。 ・悔しい。
疑う	・変ですね。 ・おかしいですね。
注意する	・あのう、ちょっと[テレビの音]が[大きい]んですが、…… ———あっ、すみません。 ・あのう、ここは[立ち入り禁止]となっていますが。
話しかける	・失礼ですが。 ・あのう、ちょっと。 ・今いいですか。
話題を出す・展開する・変える	・～のこと／件ですが。 ・さて、…… ・ところで、…… ・話は変わりますが、……
繰り返しを求める	・[大江健三郎]を知っていますか。 ———えっ、[オオエ]……何ですか。 ・～って、何ですか。
話を中断する	・お話し中、すみません。 ・あのう、すみません。すぐ戻ります。
話を終わらせる	・あっ、もうこんな時間(ですか)。そろそろ失礼します。 ・では、これで。 ・また今度ゆっくり。

注：1. コミュニケーションの意図に支障を来さないことを前提に、表に挙げられたコミュニケーション表現を、具体的な状況または内容に即し、文中の名詞を入れ替えたり、「です・ます」体と「だ」体に変えたりすることができる。例えば：「別れ」欄にあった「よいお年を」を「よい週末を」に替え、「説明」という欄にあった「資料をご覧ください」を「図1をご覧ください」に替え、「尋ねる」欄にあった「今度の夏休みはどうする」を「来月の発表はどうする」に替え、「疑う」欄にあった「おかしいですね」を、「おかしいね」に替え、「繰り返しを求める」欄にあった「大江健三郎を知っていますか」を「大江健三郎を知っている」に替えることができる。

2. ()は、その中の内容が省略できることを表し、[]は、その中の内容を取り替えられることを表す。

三、語彙

(一)語彙表

凡例

I 見出し語

1. 本表では、高校段階で習熟すべき 1000 の基本語彙が示されている。五十音順で配列されている。
2. 外来語は片假名で表記する。
3. 語形が複数ある場合は、その間を「/」によって示す。
4. 品詞は略語であらわし、複数の品詞は、その間を「・」によって示す。
5. 本表には、高校段階で習得すべき語彙の意味を挙げられている。意味が近い場合は「，」，意味が異なる場合は「；」によって示す。

II 記号

1. ○の中の数字はアクセントを表し、NHK 編集の『日本語発音アクセント辞典』(新版 1998)によるものである。一部の二つのアクセントがある語は、本表では最初アクセントに従い表わしている。アクセントの標記方法は、日本三省堂『新明解国語辞典』に参照したものである。
2. [] 内は、通常の日本語としての表記を示す。『三省堂国語辞典』(第 5 版)を参照した。
3. ()内は品詞を示す。詳細は以下の通りである。

名—— 名詞(代名詞と助数詞を含む)

動 1—— 一類動詞，伝統文法の「五段動詞」にあたる

動 2—— 二類動詞，伝統文法の「一段動詞」にあたる

動 3—— 三類動詞，伝統文法の「サ変動詞」「カ変動詞」にあたる

形 1—— 一類形容詞，伝統文法の「形容詞」にあたる

形 2—— 二類形容詞，伝統文法の「形容動詞」にあたる

副—— 副詞 連体——連体詞 接——接続詞

自—— 自動詞 他——他動詞

あ

あいず	① [合図]	(名)	信号
あう	① [合う]	(動 1 自)	适合，一致
あお	① [青]	(名)	藍色，綠色
あかり	① [明かり]	(名)	光亮，灯
あがる	① [上がる]	(動 1 自)	上，升起，提高
あきらめる	④	(動 2 他)	断念，死心
あきる	② [飽きる]	(動 2 自)	厌倦，膩烦
あける	① [明ける]	(動 2 自)	(天)亮了
あご	②	(名)	下颌，下巴
あずかる	③ [預かる]	(動 1 他)	保管；保留
あずける	③ [預ける]	(動 2 他)	寄存，托付
あたえる	① [与える]	(動 2 他)	给，给予
あたためる	④ [暖める]	(動 2 他)	加温，加热

あつかう	⑥ [扱う]	(动 1 他)	对待，处理
あてる	⑥ [当てる]	(动 2 他)	猜；对应上
あな	② [穴]	(名)	孔，洞
アニメ	①	(名)	动画片
あぶら	⑥ [油]	(名)	油
あまる	② [余る]	(动 1 自)	余下，剩下
あみ	② [網]	(名)	网
あやまる	③ [謝る]	(动 1 他)	道歉
あらそう	③ [争う]	(动 1 他)	争，斗争，竞争
あらためる	④ [改める]	(动 2 他)	改，改变，改正
あらわす	③ [現す]	(动 1 他)	显露，显现
あらわす	③ [表す]	(动 1 他)	表现，表示
あらわれる	④ [現れる]	(动 2 自)	出现，暴露
あるいは	②	(接)	或，或者
あわせる	③ [合わせる]	(动 2 他)	合并，配合
あわてる	⑥ [慌てる]	(动 2 自)	慌张，急忙
あんしん	⑥ [安心]	(名・动 3 自)	放心
あんぜん	⑥ [安全]	(名・形 2)	安全，平安
あんない	③ [案内]	(名・动 3 他)	引导，通知

い

い	⑥ [胃]	(名)	胃
いか	① [以下]	(名)	以下
いがい	① [以外]	(名)	以外，此外
いき	① [息]	(名)	气息，喘息，呼吸
いきおい	③ [勢い]	(名)	势头，气势
いきる	② [生きる]	(动 2 自)	活，生活；生动
いけない	⑥	(形 1)	不许，不可
いけん	① [意見]	(名)	意见，见解
いご	① [以後]	(名)	以后，之后
いし	① [意志]	(名)	意志，意愿
いじょう	① [以上]	(名)	以上，超出
いぜん	① [以前]	(名)	以前，从前
いそぐ	② [急ぐ]	(动 1 自)	急着(做)，赶快
いた	① [板]	(名)	板，木板
いたす	②	(动 1 他)	(自谦)做
いたずら	⑥	(名・形 2)	恶作剧，闹着玩儿
いただく	⑥	(动 1 他)	(自谦)承蒙，领受；吃，喝
いち	① [位置]	(名)	位置
いっしょうけんめい	⑤ [一生懸命]	(副)	拼命，努力
いっそう	⑥	(副)	越发，更加
いっぱん	⑥ [一般]	(名・副)	一般，普通
いと	① [糸]	(名)	线

いとこ	②	(名)	堂(表)兄弟(姐妹)
いない	① [以内]	(名)	以内
いね	① [稲]	(名)	水稻
いのち	① [命]	(名)	生命
いのる	② [祈る]	(动 1 他)	祝愿, 祈祷
いらっしゃる	④	(动 1 自)	(尊他)在; 来; 去
いわ	② [岩]	(名)	岩石
いわう	② [祝う]	(动 1 他)	祝贺
いんしょう	① [印象]	(名)	印象
インターネット	⑤	(名)	互联网, 因特网

う

うかぶ	① [浮かぶ]	(动 1 自)	飘浮, 浮现
うごかす	③ [動かす]	(动 1 他)	开动, 转动
うごく	② [動く]	(动 1 自)	动, 摇动
うしなう	① [失う]	(动 1 他)	失去, 丧失
うそ	①	(名)	谎言, 假话
うたがう	① [疑う]	(动 1 他)	怀疑, 猜疑
うち	①	(名)	家
うつす	② [移す]	(动 1 他)	搬动, 移动
うつす	② [写す]	(动 1 他)	拍照, 抄写
うつる	② [移る]	(动 1 自)	移, 移动
うで	② [腕]	(名)	胳膊; 本领
うま	② [馬]	(名)	马
うまい	②	(形 1)	可口; 高明
うむ	① [生む]	(动 1 他)	生, 产生
うらやましい	⑤	(形 1)	羡慕
うん	① [運]	(名)	运气, 命运
うんてん	① [運転]	(名・动 3 他)	驾驶

え

えいきょう	① [影響]	(名・动 3 自)	影响
えいよう	① [栄養]	(名)	营养
えだ	① [枝]	(名)	树枝
えらい	② [偉い]	(形 1)	了不起, 地位高
エレベーター	③	(名)	电梯
えんりょ	① [遠慮]	(名・动 3 他)	客气, 谢绝

お

お		(前缀)	表示尊敬
おう	① [迫う]	(动 1 他)	追, 赶; 催逼

おうふく	① [往復]	(名・動 3 自)	往返
おおぜい	③ [大勢]	(名)	大批(人)，众多(人)
おかしい	③	(形 1)	可笑，奇怪
おく	① [奥]	(名)	里头，内部
おくさん	① [奥さん]	(名)	夫人
おくる	① [贈る]	(動 1 他)	赠送
おこす	② [起こす]	(動 1 他)	叫醒；引起；发起
おこなう	① [行う]	(動 1 他)	进行，举行
おこる	② [起こる]	(動 1 自)	起，发生
おさえる	③ [押さえる]	(動 2 他)	压住，抑制
おじ	① [伯父]	(名)	伯伯，叔叔，舅舅
おいしい	② [惜しい]	(形 1)	可惜
おじぎ	①	(名・動 3 自)	鞠躬，行礼
おす	① [押す]	(動 1 他)	推，压
おそれる	③ [恐れる]	(動 2 自)	怕，恐惧
おそろしい	④ [恐ろしい]	(形 1)	可怕的
おちる	② [落ちる]	(動 2 自)	掉，落
おっしゃる	③	(動 1 他)	(尊他)说
おっと	① [夫]	(名)	丈夫
おとす	② [落とす]	(動 1 他)	使落下；丢失；去掉
おとなしい	④	(形 1)	老实，规矩
おどろく	③ [驚く]	(動 1 自)	吃惊，惊讶
おば	① [伯母]	(名)	伯母，婶婶，舅母
おもいだす	④ [思い出す]	(動 1 他)	想起
おもちゃ	②	(名)	玩具
おもて	③ [表]	(名)	表面，外表，正面
おもな	① [主な]	(连体)	主要的
およそ	①	(名)	大概，大致
および	① [及び]	(接)	及，以及
おりる	② [下りる]	(動 2 自)	下，下来
おりる	② [降りる]	(動 2 自)	下(车)，下来
おる	① [折る]	(動 1 他)	折(断)，弯曲
おれる	② [折れる]	(動 2 自)	折，断
おろす	② [下ろす]	(動 1 他)	取下，卸下
おろす	② [降ろす]	(動 1 他)	使(人)下
おわり	① [終わり]	(名)	结束，終了
おんせん	① [温泉]	(名)	温泉
おんど	① [温度]	(名)	温度

か

カーテン	①	(名)	窗帘
カード	①	(名)	卡片
かい	① [会]	(名)	会，会议

かいがん	① [海岸]	(名)	海岸
かいぎ	① [会議]	(名)	会议
がいこう	① [外交]	(名)	外交
かう	① [飼う]	(动 1 他)	养, 饲养
かえす	① [帰す]	(动 1 他)	使回去
かえる	① [替える]	(动 2 他)	换, 更换
かがく	① [化学]	(名)	化学
かかり	① [係]	(名)	负责某事务的人
かかる	②	(动 1 自)	患(病)
かぎる	② [限る]	(动 1 自)	限定, 限于
かぐ	①	(动 1 他)	闻, 嗅
かくす	② [隠す]	(动 1 他)	掩盖, 隐藏
がくせい	① [学生]	(名)	(大)学生
がくもん	② [学問]	(名)	学问, 学术
かくれる	③ [隠れる]	(动 2 自)	躲藏, 隐藏
かげ	① [影]	(名)	影, 影子
かこ	① [過去]	(名)	过去
かこむ	① [囲む]	(动 1 他)	围上, 包围
かさねる	① [重ねる]	(动 2 他)	叠加; 反复
かざる	① [飾る]	(动 1 他)	装饰
かじ	① [火事]	(名)	火灾
かしこい	③ [賢い]	(形 1)	聪明
ガス	①	(名)	煤气, 气体
かた	[～方]	(后缀)	～方法
かた	① [肩]	(名)	肩, 肩膀
かたづける	④ [片づける]	(动 2 他)	收拾; 解决
かたむく	③ [傾く]	(动 1 自)	倾斜, 倾向于
がっかり	③	(副・动 3 自)	失望
がっき	① [楽器]	(名)	乐器
かつどう	① [活動]	(名・动 3 自)	活动
かてい	① [家庭]	(名)	家庭
かど	① [角]	(名)	角, 拐角
かならず	① [必ず]	(副)	必定, 一定
かなり	①	(副)	相当, 颇
かのう	① [可能]	(名・形 2)	可能
がまん	① [我慢]	(名・动 3 他)	忍耐, 忍受
かみ	① [神]	(名)	神, 神仙
かみなり	③ [雷]	(名)	雷
かむ	①	(动 1 他)	咬, 嚼
かゆい	②	(形 1)	痒
かよう	① [通う]	(动 1 自)	往来, 上学
から	② [空]	(名)	空
かれる	① [枯れる]	(动 2 自)	枯萎
カレンダー	②	(名)	年历, 挂历

かわ	② [皮]	(名)	皮
かわいそう	④	(形 2)	可怜
かわかす	③ [乾かす]	(动 1 他)	弄干, 晾干
かわく	② [乾く]	(动 1 自)	干, 干燥
かわり	① [代わり]	(名)	代替
かわる	① [替わる]	(动 1 自)	更换, 替换
かん	[間]	(名)	表示时间, 区间
かんかく	① [感覚]	(名)	感觉
かんきょう	① [環境]	(名)	环境
かんけい	① [関係]	(名・动 3 自)	关系
かんさつ	① [観察]	(名・动 3 他)	观察
かんじ	① [感じ]	(名)	感觉, 印象
かんしゃ	① [感謝]	(名・动 3 自他)	感谢
かんじょう	③ [勘定]	(名・动 3 他)	结帐, 算帐
かんじょう	① [感情]	(名)	感情
かんしん	① [感心]	(名・动 3 自)	钦佩, 赞赏
かんせい	① [完成]	(名・动 3 自他)	完成, 落成
かんせつ	① [間接]	(名)	间接
かんぜん	① [完全]	(形 2)	完全, 完善
かんそう	① [感想]	(名)	感想
かんたん	① [簡単]	(形 2)	简单, 容易
かんばん	① [看板]	(名)	招牌

き

きいろ	① [黄色]	(名)	黄色
きえる	① [消える]	(动 2 自)	消失, 熄灭
きおく	① [記憶]	(名・动 3 他)	记忆, 记性
きかい	② [機会]	(名)	机会
きかい	② [機械]	(名)	机器, 机械
きけん	① [危険]	(名・形 2)	危险
きげん	① [機嫌]	(名)	心情, 情绪
きこう	① [気候]	(名)	气候
きし	② [岸]	(名)	岸
ぎじゅつ	① [技術]	(名)	技术
きせる	① [着せる]	(动 2 他)	给……穿上
きそ	① [基礎]	(名)	基础, 根基
きそく	① [規則]	(名)	规则
きぬ	① [絹]	(名)	丝绸, 丝织品
きねん	① [記念]	(名・动 3 他)	纪念
きのどく	③ [気の毒]	(形 2)	可怜, 可惜
きぶん	① [気分]	(名)	心情, 身体状况
きぼう	① [希望]	(名・动 3 他)	希望
ぎむ	① [義務]	(名)	义务

ぎもん	① [疑問]	(名)	疑问
ぎやく	① [逆]	(名・形 2)	逆，反，倒
きゅう	① [急]	(名・形 2)	急迫，突然，陡
きゅうじつ	① [休日]	(名)	假日，休息日
ぎゅうにゅう	① [牛乳]	(名)	牛奶
きゅうりょう	① [給料]	(名)	工资
ぎょう	[行]	(名)	行，～行
きょういく	① [教育]	(名・动 3 他)	教育
きょうかしょ	③ [教科書]	(名)	教科书
きょうきゅう	① [供給]	(名・动 3 他)	供给，供应
きょうそう	① [競争]	(名・动 3 自)	竞争
きょうつう	① [共通]	(名・动 3 自)	共同，共通
きょうみ	① [興味]	(名)	兴趣
きょうりよく	① [協力]	(名・动 3 自)	协助，合作
きょり	① [距離]	(名)	距离
きらう	① [嫌う]	(动 1 他)	嫌恶，讨厌
きり	① [霧]	(名)	雾
きる	① [切る]	(动 1 他)	切，割，截，砍
きれる	② [切れる]	(动 2 自)	断开；到期；(刀)快
きろく	① [記録]	(名・动 3 他)	记录，记载
きん	① [金]	(名)	金
ぎん	① [銀]	(名)	银
ぎんこう	① [銀行]	(名)	银行
きんし	① [禁止]	(名・动 3 他)	禁止
きんじょ	① [近所]	(名)	近邻，近处
きんぞく	① [金属]	(名)	金属

く

ぐあい	① [具合]	(名)	情况，样子
くさい	② [臭い]	(形 1)	难闻
くさる	② [腐る]	(动 1 自)	腐烂
くずれる	③ [崩れる]	(动 2 自)	坍塌，溃败
くせ	② [癖]	(名)	癖好，习惯，毛病
くださる	③	(动 1 他)	(尊他)送，给
くちびる	① [唇]	(名)	唇，嘴唇
くばる	② [配る]	(动 1 他)	分配
くふう	① [工夫]	(名・动 3 他)	想办法，找窍门
くべつ	① [区別]	(名・动 3 他)	区别
くやしい	③ [悔しい]	(形 1)	令人懊悔，遗憾
くらす	① [暮らす]	(动 1 自)	过日子，生活
クラブ	①	(名)	俱乐部
くりかえす	③ [繰り返す]	(动 1 他)	反复，重复
くるしむ	③ [苦しむ]	(动 1 自)	感到痛苦，苦于

くれる	⑩ [暮れる]	(动 2 自)	日暮，天黑
くれる	⑩	(动 2 他)	给(我)
くろ	① [黒]	(名)	黑色
くろう	① [苦劳]	(名・动 3 自)	辛苦，吃苦
くわえる	⑩ [加える]	(动 2 他)	加上，追加，添加
くわしい	③ [詳しい]	(形 1)	详细

け

け	⑩ [毛]	(名)	毛
けいえい	⑩ [経営]	(名・动 3 他)	经营
けいかく	⑩ [計画]	(名・动 3 他)	计划
けいき	⑩ [景気]	(名)	景气，市况
けいけん	⑩ [経験]	(名・动 3 他)	经验
けいこう	⑩ [傾向]	(名)	倾向
けいざい	① [経済]	(名)	经济
けいさつ	⑩ [警察]	(名)	警察局，警察
けいさん	⑩ [計算]	(名・动 3 他)	计算
けいしき	⑩ [形式]	(名)	形式
げいじゅつ	⑩ [芸術]	(名)	艺术
けが	② [怪我]	(名・动 3 自)	伤，受伤
げき	① [劇]	(名)	戏剧
けずる	⑩ [削る]	(动 1 他)	削，削减
けっか	⑩ [結果]	(名)	结果
けっきょく	⑩ [結局]	(名・副)	归根到底，结果
けっこう	①	(形 2)	很好；足够，不必
けっこん	⑩ [結婚]	(名・动 3 自)	结婚
けっしん	① [決心]	(名・动 3 他)	决心
けってい	⑩ [決定]	(名・动 3 自他)	决定
けってん	③ [欠点]	(名)	缺点，毛病
けむり	⑩ [煙]	(名)	烟，烟雾
ける	①	(动 1 他)	踢，蹬
けん	[軒]	(名)	表示房屋数量
けん	① [県]	(名)	县
げんいん	⑩ [原因]	(名)	原因，理由
けんがく	⑩ [見学]	(名・动 3 他)	参观学习
けんきゅう	⑩ [研究]	(名・动 3 他)	研究
けんこう	⑩ [健康]	(名・形 2)	健康
げんざい	① [現在]	(名)	现在，目前
けんせつ	⑩ [建設]	(名・动 3 他)	建设，修建
げんだい	① [現代]	(名)	现代，现今
けんちく	⑩ [建築]	(名・动 3 他)	建筑
けんり	① [権利]	(名)	权利
げんりょう	③ [原料]	(名)	原料

こ

こ	① [個]	(名)	～个
ご	① [語]	(名)	单词，词语
ご		(前缀)	表示尊敬
こうかい	① [後悔]	(名・动 3 他)	后悔
こうがい	① [郊外]	(名)	郊外
こうぎょう	① [工業]	(名)	工业
ごうけい	① [合計]	(名・动 3 他)	合计，总计
こうこう	① [高校]	(名)	高中
こうこく	① [広告]	(名)	广告
こうさてん	① [交差点]	(名)	十字路口
こうじ	① [工事]	(名・动 3 自)	工程，施工
こうつう	① [交通]	(名)	交通
こうどう	① [行動]	(名・动 3 自)	行动
こうばん	① [交番]	(名)	派出所
こうふく	① [幸福]	(名・形 2)	幸福
こうへい	① [公平]	(名・形 2)	公平，公道
こうりゅう	① [交流]	(名・动 3 自)	交流
こえる	① [超える]	(动 2 自)	超过，超出
こえる	① [越える]	(动 2 自)	越过
コーヒー	③	(名)	咖啡
こおる	① [凍る]	(动 1 自)	结冰，结冻
こきゅう	① [呼吸]	(名・动 3 自他)	呼吸
こくさい	① [国際]	(名)	国际
こくみん	① [国民]	(名)	国民，民众
こし	① [腰]	(名)	腰
こしょう	① [故障]	(名・动 3 自)	故障
こじん	① [個人]	(名)	个人
こする	②	(动 1 他)	摩擦，擦
ごと(に)		(后缀)	每～
ことわる	③ [断る]	(动 1 他)	谢绝，拒绝；事先打招呼
こな	② [粉]	(名)	粉，粉末
このあいだ	① [この間]	(名)	最近，前几天
このごろ	①	(名)	近来，最近
こまかい	③ [細かい]	(形 1)	细小，细致，琐碎
こまる	② [困る]	(动 1 自)	困难，为难
ゴム	①	(名)	橡胶
ごらん	① [ご覧]	(名)	(尊他)看
ころす	① [殺す]	(动 1 他)	杀，杀死
ころぶ	③ [転ぶ]	(动 1 自)	跌倒
こわす	② [壊す]	(动 1 他)	弄坏，损坏

こんなん	① [困難]	(名・形 2)	困难
こんばん	① [今晚]	(名)	今晚
コンピューター	③	(名)	电脑
こんや	① [今夜]	(名)	今夜

さ

さ	① [差]	(名)	差别，差距
さいきん	① [最近]	(名)	最近
さいご	① [最後]	(名)	最后
ざいさん	① [財産]	(名)	财产
さいしょ	① [最初]	(名)	最初，起初
さいのう	① [才能]	(名)	才能
さいばん	① [裁判]	(名・动 3 他)	裁断，审判
ざいりょう	③ [材料]	(名)	材料
さか	② [坂]	(名)	坡，坡道
さかい	② [境]	(名)	边界，分界
さがる	② [下がる]	(动 1 自)	下降；后退
さかん	① [盛ん]	(形 2)	兴盛，热烈
さくひん	① [作品]	(名)	作品
さけ	① [酒]	(名)	酒
さける	② [避ける]	(动 2 他)	避开，躲避
さげる	② [下げる]	(动 2 他)	降低；提，挎；撤下
ささえる	① [支える]	(动 2 他)	支撑；支持
さす	① [刺す]	(动 1 他)	扎，蛰
さつ	① [札]	(名)	纸币，钞票
さびしい	③ [寂しい]	(形 1)	寂寞，冷清
さま	[～様]	(后缀)	表示尊称
さる	① [猿]	(名)	猴子
さわぐ	② [騒ぐ]	(动 1 自)	吵闹，喧嚣
さわる	① [触る]	(动 1 自)	触摸，碰
さんかく	① [三角]	(名)	三角形
さんぎょう	① [産業]	(名)	产业
さんこう	① [参考]	(名)	参考
ざんねん	③ [残念]	(形 2)	遗憾，可惜
さんぽ	① [散歩]	(名・动 3 自)	散步

し

し	① [市]	(名)	市，城市
し	① [詩]	(名)	诗，诗歌
じ	① [字]	(名)	字，文字
しかく	③ [四角]	(名)	四方形，四角形
しかた	① [仕方]	(名)	做法，办法

しかも	②	(接)	而，而且
しかる	①	(动 1 他)	斥责，责备
しき	② [式]	(名)	仪式，样式
しく	① [敷く]	(动 1 他)	铺，垫
しげき	① [刺激]	(名・动 3 他)	刺激
しげる	② [茂る]	(动 1 自)	茂盛
じけん	① [事件]	(名)	事件，案件
じこ	① [事故]	(名)	事故
じじつ	① [事实]	(名)	事实
ししゅつ	① [支出]	(名・动 3 他)	支出
じじょう	① [事情]	(名)	情况，缘由
じしん	① [自信]	(名)	自信，信心
じしん	① [地震]	(名)	地震
しずむ	① [沈む]	(动 1 自)	沉没；消沉
しぜん	① [自然]	(名)	自然，自然界
しそう	① [思想]	(名)	思想
した	② [舌]	(名)	舌，舌头
じだい	① [時代]	(名)	时代
したがう	① [従う]	(动 1 自)	遵从，按照，随着
したがって	①	(接)	因此，从而
したぎ	① [下着]	(名)	内衣
したく	① [支度]	(名・动 3 自)	准备
しつ	① [質]	(名)	质量，品质
しっかり	③	(副・动 3 自)	结实；坚定；挺住
じっけん	① [実験]	(名・动 3 他)	实验，试验
じっこう	① [実行]	(名・动 3 他)	实行
じっさい	① [實際]	(名)	实际，事实
しっぱい	① [失敗]	(名・动 3 自)	失败，没有做好
しどう	① [指導]	(名・动 3 他)	指导
じどうしゃ	② [自動車]	(名)	汽车
しなもの	① [品物]	(名)	物品，东西
しぬ	① [死ぬ]	(动 1 自)	死
しはい	① [支配]	(名・动 3 他)	支配，统治
しばい	① [芝居]	(名)	戏，戏剧
しばらく	②	(副)	一会儿；许久
しばる	② [縛る]	(动 1 他)	捆绑，束缚
しまう	①	(动 1 他)	收起来；做完
しまる	② [閉まる]	(动 1 自)	关闭
じまん	① [自慢]	(名・动 3 他)	自夸，得意
じみ	② [地味]	(形 2)	朴素，质朴
じむ	① [事務]	(名)	事务
しめす	② [示す]	(动 1 他)	出示，表示
しゃかい	① [社会]	(名)	社会
じゆう	② [自由]	(名・形 2)	自由，随便

しゅうかん	①	[習慣]	(名)	习惯
じゅうしょ	①	[住所]	(名)	住址
しゅうしょく	①	[就職]	(名・動 3 自)	就业
しゅうにゅう	①	[収入]	(名)	收入
じゅうぶん	③	[十分]	(形 2)	充分，足够
じゅうよう	①	[重要]	(形 2)	重要
しゅうり	①	[修理]	(名・動 3 他)	修理
しゅじゅつ	①	[手術]	(名・動 3 自)	手术
しゅじん	①	[主人]	(名)	丈夫；老板
しゅちょう	①	[主張]	(名・動 3 他)	主张
しゅと	①	[首都]	(名)	首都
じゅよう	①	[需要]	(名)	需求，需要
しゅるい	①	[種類]	(名)	种类
じゅんじょ	①	[順序]	(名)	顺序
じゅんび	①	[準備]	(名・動 3 他)	准备
しょう	①	[使用]	(名・動 3 他)	使用
しょうぎょう	①	[商業]	(名)	商业
じょうけん	③	[条件]	(名)	条件
しょうじき	③	[正直]	(形 2)	老实
じょうしき	①	[常識]	(名)	常识
しょうせつ	①	[小説]	(名)	小说
しょうたい	①	[招待]	(名・動 3 他)	邀请，招待
じょうたい	①	[状態]	(名)	状态
じょうだん	③	[冗談]	(名)	玩笑，笑话
しょうち	①	[承知]	(名・動 3 他)	同意，知道
しょうとつ	①	[衝突]	(名・動 3 自)	冲撞；矛盾
しょうねん	①	[少年]	(名)	少年
しょうばい	①	[商売]	(名・動 3 自)	生意，买卖
しょうひん	①	[商品]	(名)	商品
しょうめい	①	[証明]	(名・動 3 他)	证明
しょうゆ	①		(名)	酱油
しょうらい	①	[将来]	(名)	将来，未来
しよくぎょう	②	[職業]	(名)	职业
しよくぶつ	②	[植物]	(名)	植物
じょせい	①	[女性]	(名)	女性
しるし	①	[印]	(名)	标志，记号
しんけい	①	[神経]	(名)	神经
しんごう	①	[信号]	(名)	信号，信号灯
じんこう	①	[人口]	(名)	人口
しんじる	③	[信じる]	(動 2 他)	相信
じんせい	①	[人生]	(名)	人生
しんせき	①	[親戚]	(名)	亲戚
しんぞう	①	[心臓]	(名)	心脏
しんねん	①	[新年]	(名)	新年，元旦

しんぱい	②	〔心配〕	(名・动 3 他・形 2)	担心，挂念；操心
しんぱ	①	〔進歩〕	(名・动 3 自)	进步
しんよう	②	〔信用〕	(名・动 3 他)	信赖，相信
しんるい	②	〔親類〕	(名)	亲属，亲戚

す

ず	②	〔図〕	(名)	图，图表
スイッチ	②		(名)	开关
すいどう	②	〔水道〕	(名)	自来水(管)
ずいぶん	①		(副)	相当，很
すうがく	②	〔数学〕	(名)	数学
すがた	①	〔姿〕	(名)	姿势，举止，身影
スケジュール	②		(名)	日程(表)
すごい	②		(形 1)	惊人，厉害，了不起
すじ	①	〔筋〕	(名)	线；条理
すすむ	②	〔進む〕	(动 1 自)	前进，进步
すすめる	②	〔勧める〕	(动 2 他)	建议，提议
すすめる	②	〔進める〕	(动 2 他)	推进，进行
ずつ			(后缀)	(表示均摊)每，各
すっかり	③		(副)	完全，彻底
すっぱい	③		(形 1)	酸
すな	②	〔砂〕	(名)	沙，沙子
すなわち	②		(接)	即，即是
スピーチ	②		(名)	致词，演说
スプーン	②		(名)	汤匙，调羹
すべて	①		(名・副)	一切，所有；总共，统统
すべる	②	〔滑る〕	(动 1 自)	滑，溜
すみ	①	〔隅〕	(名)	角落
すむ	①	〔済む〕	(动 1 自)	完了，过得去，解决
ずるい	②		(形 1)	狡猾
すると	②		(接)	于是，这么一来
するどい	③	〔鋭い〕	(形 1)	尖，尖锐

せ

せ	①	〔背〕	(名)	脊背，后背
せいかく	②	〔正確〕	(名・形 2)	正确，准确
せいかく	②	〔性格〕	(名)	性格
せいきゅう	②	〔請求〕	(名・动 3 他)	索取，要求
ぜいきん	②	〔税金〕	(名)	税款
せいこう	②	〔成功〕	(名・动 3 自)	成功
せいじ	②	〔政治〕	(名)	政治

せいしつ	①	[性質]	(名)	性質
せいしん	①	[精神]	(名)	精神
せいぞう	①	[製造]	(名・動 3 他)	制造，生产
ぜいたく	③		(名・形 2)	奢侈
せいちょう	①	[成長]	(名・動 3 自)	成长，生长；增长
せいど	①	[制度]	(名)	制度
せいねん	①	[青年]	(名)	青年
せいふ	①	[政府]	(名)	政府
せいめい	①	[生命]	(名)	生命
せいよう	①	[西洋]	(名)	西洋，西方
せいり	①	[整理]	(名・動 3 他)	整理，整顿
セーター	①		(名)	毛衣
せき	②		(名)	咳嗽
せきたん	③	[石炭]	(名)	煤，煤炭
せきにん	①	[責任]	(名)	责任
せきゆ	①	[石油]	(名)	石油
せつかく	①		(副)	好(不)容易，特意
せっけん	①	[石けん]	(名)	肥皂
ぜったい	①	[絶対]	(副)	绝对，一定
せつび	①	[設備]	(名)	设备
せつめい	①	[説明]	(名・動 3 他)	说明，解释
せなか	①	[背中]	(名)	背，脊背
ぜひ	①		(副)	一定，务必
ゼロ	①		(名)	零
せん	①	[線]	(名)	线，路线
せんきょ	①	[選挙]	(名・動 3 他)	选举
せんしゅ	①	[選手]	(名)	选手，运动员
せんそう	①	[戦争]	(名)	战争
ぜんたい	①	[全体]	(名)	全部，整体
せんもん	①	[専門]	(名)	专业，专长

そ

ぞうか	①	[増加]	(名・動 3 自他)	增加
そうぞう	①	[想像]	(名・動 3 他)	想像
そうだん	①	[相談]	(名・動 3 他)	商量，咨询
そうとう	①	[相当]	(名・動 3 自・形 2)	相当于；很，颇
そこ	①	[底]	(名)	底，底部
そこで	①		(接)	因此，所以
そしき	①	[組織]	(名・動 3 他)	组织
そだつ	②	[育つ]	(動 1 自)	生长，成长
そだてる	③	[育てる]	(動 2 他)	抚育，培养
そで	①	[袖]	(名)	袖子
それぞれ	②		(名・副)	分別，每个

それとも	③	(接)	还是，或者
それに	①	(接)	而且，加之
そろう	②	(动 1 自)	齐全，到齐，一致
そろえる	③	(动 2 他)	凑齐，使……一致
そん	① [損]	(名・形 2)	亏，吃亏，损失
そんけい	① [尊敬]	(名・动 3 他)	尊敬

た

た	① [田]	(名)	田，水田
だい	① [題]	(名)	标题，题目
だいがく	① [大学]	(名)	大学
たいくつ	① [退屈]	(名・形 2)	厌倦，乏味
だいじ	③ [大事]	(形 2)	重要；珍惜
だいじん	① [大臣]	(名)	大臣；(政府)部长
たいする	③ [対する]	(动 3 自)	对，对于
たいそう	① [体操]	(名)	体操
だいたい	①	(副)	大体
たいてい	①	(副)	大抵，大都
たいど	① [態度]	(名)	态度
だいひょう	① [代表]	(名・动 3 他)	代表
だいぶ	①	(副)	很，相当
たいふう	③ [台風]	(名)	台风
たいよう	① [太陽]	(名)	太阳
たいら	① [平ら]	(形 2)	平的，平坦
たいりく	① [大陸]	(名)	大陆
たおす	② [倒す]	(动 1 他)	倒，弄倒
たおれる	③ [倒れる]	(动 2 自)	倒，病倒
たがい	① [互い]	(名)	互相，双方
たけ	① [竹]	(名)	竹子
たしか	① [確か]	(形 2)	确实，可靠；大概
ただ	①	(副)	只，仅仅；不过
ただ	①	(名)	免费；普通
たたかう	① [戦う]	(动 1 自)	战斗，斗争
たたく	②	(动 1 他)	敲，叩
たたみ	① [畳]	(名)	草席，榻榻米
たたむ	① [畳む]	(动 1 他)	折叠，合上
たて	① [縦]	(名)	纵，竖；长
たてる	② [立てる]	(动 2 他)	立起；掀起；制定
たとえ	①	(副)	即使，纵然
たな	① [棚]	(名)	搁板，架子
たに	② [谷]	(名)	谷，山谷
たにん	① [他人]	(名)	别人，外人
たね	① [種]	(名)	种子

たのしむ	③	[楽しむ]	(动 1 他)	享受，欣赏；期待
たば	①	[束]	(名)	把，束，捆
たばこ	①		(名)	香烟
たび	②	[度]	(名)	次，回；次数
たま	②	[玉]	(名)	球，珠；子弹
たまに	①		(副)	偶尔
たまる	①		(动 1 自)	攒，积存
だまる	②	[黙る]	(动 1 自)	沉默，不说话；瞒着
ため	②		(名)	为，为了
ためす	②	[試す]	(动 1 他)	试，试验
ためる	①		(动 2 他)	积蓄，积攒
たりる	①	[足りる]	(动 2 自)	足，够
たんす	①		(名)	衣柜，衣橱
だんせい	①	[男性]	(名)	男性
だんたい	①	[団体]	(名)	团体

ち

ち	①	[血]	(名)	血，血缘
ちがい	①	[違い]	(名)	差别，差异；差错
ちかづく	③	[近づく]	(动 1 自)	靠近，接近，近似
ちかてつ	①	[地下鉄]	(名)	地铁
ちきゅう	①	[地球]	(名)	地球
ちこく	①	[遅刻]	(名・动 3 自)	迟到
ちしき	①	[知識]	(名)	知识
ちほう	②	[地方]	(名)	地区，地方
ちやいろ	①	[茶色]	(名)	茶色
ちゃん			(后缀)	表示亲切的称呼
ちゅうい	①	[注意]	(名・动 3 自)	注意；提醒
ちゅうおう	③	[中央]	(名)	中央，中间
ちゅうしゃ	①	[注射]	(名・动 3 他)	打针，注射
ちゅうしん	①	[中心]	(名)	中心
ちゅうもん	①	[注文]	(名・动 3 他)	订做，订购；要求
ちょうし	①	[調子]	(名)	情况；音调
ちょきん	①	[貯金]	(名・动 3 自他)	存钱，储蓄
ちよくせつ	①	[直接]	(名・副)	直接
ちり	①	[地理]	(名)	地理
ちる	①	[散る]	(动 1 自)	凋谢；分散

つ

ついでに	①		(副)	顺便，就便
ついに	①		(副)	终于
つかまえる	①	[捕まえる]	(动 2 他)	抓住，捉住

つかむ	②		(动 1 他)	抓，握住
つき	②	[～月]	(后缀)	～月
つく	①	[突く]	(动 1 他)	扎，戳；撞
つごう	①	[都合]	(名)	情况；方便
つち	②	[土]	(名)	土，土地
つつむ	②	[包む]	(动 1 他)	包，裹；笼罩
つとめる	③	[勤める]	(动 2 自)	任职，工作
つなぐ	①	[繋ぐ]	(动 1 他)	系，接合
つねに	①	[常に]	(副)	经常，总
つぶ	①	[粒]	(名)	粒，颗粒
つま	①	[妻]	(名)	妻子
つまり	①		(副)	即，就是说
つみ	①	[罪]	(名)	罪，罪行
つむ	①	[積む]	(动 1 他)	堆积；装载；积累
つめ	①	[爪]	(名)	指甲，爪
つもり	①		(名)	打算
つゆ	①	[梅雨]	(名)	梅雨
つらい	①		(形 1)	痛苦，难过，艰难
つれる	①	[連れる]	(动 2 他)	带，领

て

ていど	①	[程度]	(名)	程度
ていねい	①	[丁寧]	(形 2)	仔细，认真；客气
テーブル	①		(名)	桌子
てき	①	[敵]	(名)	敌人
てきとう	①	[適当]	(形 2)	适当，恰好
てつ	①	[鉄]	(名)	铁
てつづき	②	[手続き]	(名)	手续
てつどう	①	[鉄道]	(名)	铁路，铁道
テニス	①		(名)	网球
てぶくろ	②	[手袋]	(名)	手套
てら	②	[寺]	(名)	庙，寺院
てらす	②	[照らす]	(动 1 他)	照；对照
てんじょう	①	[天井]	(名)	顶棚，天花板
でんとう	①	[電灯]	(名)	电灯
てんらんかい	③	[展覧会]	(名)	展览会

と

と	①	[戸]	(名)	门
とい	①	[問い]	(名)	问，询问
どうぐ	③	[道具]	(名)	工具，道具
どうじ	①	[同時]	(名)	同时

とうぜん	①	[当然]	(副)	当然，应当
とうちゃく	①	[到着]	(名・动 3 自)	到达，抵达
とうとう	①		(副)	终于
どうろ	①	[道路]	(名)	道路，马路
とおす	①	[通す]	(动 1 他)	穿过，通过
とおり	③	[通り]	(名)	大街，马路；一样
どおり			(后缀)	原样，～样
とく	①	[得]	(名・形 2)	利益，赚头；划算
とく	①	[解く]	(动 1 他)	解，解开
とくちょう	①	[特徴]	(名)	特征
とくに	①	[特に]	(副)	尤其，特别
とくべつ	①	[特別]	(形 2)	特别，格外
どくりつ	①	[独立]	(名・动 3 自)	独立
とける	②	[解ける]	(动 2 自)	解开，解除
ところが	③		(接)	然而，可是
ところで	③		(接)	用于转换话题
としより	③	[年寄り]	(名)	老年人
とじる	②	[閉じる]	(动 2 自他)	闭，关闭
とだな	①	[戸棚]	(名)	橱，柜
とち	①	[土地]	(名)	土地；当地
とつぜん	①	[突然]	(副)	突然
とどく	②	[届く]	(动 1 自)	收到，送到
とどける	③	[届ける]	(动 2 他)	送，寄
とにかく	①		(副)	总之，姑且，不管怎样
とめる	①	[止める]	(动 2 他)	使……停下，使……停住
とりかえる	①	[取り替える]	(动 2 他)	换，更换
どりよく	①	[努力]	(名・动 3 自)	努力
どろぼう	①	[泥棒]	(名)	小偷，盗贼
どんどん	①		(副)	不断地；顺利地；有声势地

な

ないよう	①	[内容]	(名)	内容
なお	①		(副)	还，仍然；另外
なおす	②	[治す]	(动 1 他)	医治
なおる	②	[治る]	(动 1 自)	治愈，痊愈
なおる	②	[直る]	(动 1 自)	改好，修好
ながす	②	[流す]	(动 1 他)	流，冲；放(录音带)
なかなか	①		(副)	相当，很；怎么也……
ながめる	③	[眺める]	(动 2 他)	眺望
なくす	①		(动 1 他)	丢，丢失
なげる	②	[投げる]	(动 2 他)	投，抛
なさる	②		(动 1 他)	(尊他)做
なつかしい	④	[懐かしい]	(形 1)	怀念，留恋

ななめ	②	[斜め]	(名・形 2)	斜，傾斜
なべ	①	[鍋]	(名)	鍋；火锅
なま	①	[生]	(名)	生；直接
なまける	③	[怠ける]	(动 2 自)	懒惰，懈怠
なみ	②	[波]	(名)	浪，波浪
なめらか	②	[滑らか]	(形 2)	光滑；流畅
なるべく	①		(副)	尽可能
なるほど	①		(副)	原来如此，的确
なれる	②	[慣れる]	(动 2 自)	习惯

に

にがい	②	[苦い]	(形 1)	味苦；痛苦
にぎる	①	[握る]	(动 1 他)	握，掌握
にくい	②		(后缀)	难于～
にげる	②	[逃げる]	(动 2 自)	逃跑，逃走
にる	①	[似る]	(动 2 自)	像，相似
にる	①	[煮る]	(动 2 他)	煮，炖
にわとり	①	[鶏]	(名)	鸡
にんき	①	[人気]	(名)	人缘，受欢迎

ぬ

ぬう	①	[縫う]	(动 1 他)	缝；穿过
ぬく	①	[抜く]	(动 1 他)	拔，抽
ぬすむ	②	[盗む]	(动 1 他)	偷；盗窃
ぬる	①	[塗る]	(动 1 他)	涂抹
ぬるい	②		(形 1)	不够热
ぬれる	①		(动 2 自)	淋湿

ね

ね	①	[根]	(名)	根
ネクタイ	①		(名)	领带
ねっしん	①	[熱心]	(形 2)	热情，热心
ねむる	①	[眠る]	(动 1 自)	睡觉
ねんりょう	③	[燃料]	(名)	燃料

の

の	①	[野]	(名)	野地，原野
のうぎょう	①	[農業]	(名)	农业
のうりつ	①	[能率]	(名)	效率
のうりよく	①	[能力]	(名)	能力

のこす	②	[残す]	(动 1 他)	剩下，留下
のせる	①	[載せる]	(动 2 他)	装载；刊载；放……上
のぞむ	①	[望む]	(动 1 他)	希望，期望
のち	②		(名)	之后，今后
のばす	②	[延ばす]	(动 1 他)	延长，推迟
のばす	②	[伸ばす]	(动 1 他)	伸展；提高
のりかえる	④	[乗り換える]	(动 2 他)	换乘

は

パーティー	①		(名)	晚会，聚会
はい	①	[灰]	(名)	灰
ばい	①	[倍]	(名)	倍，～倍
はい	①	[杯]	(名)	～杯
ハイキング	①		(名)	郊游
はいたつ	①	[配達]	(名・动 3 他)	递送(邮件，货物)
はえる	②	[生える]	(动 2 自)	长出，丛生
ばか	①		(名)	笨蛋，混蛋，傻瓜
はかる	②	[計る]	(动 1 他)	量，计量
はく	①	[掃く]	(动 1 他)	扫，打扫
はげしい	③	[激しい]	(形 1)	激烈，厉害
バケツ	①		(名)	桶
はし	①	[端]	(名)	一端，一边
はじ	②	[恥]	(名)	羞耻，耻辱
はしら	③	[柱]	(名)	柱子
はず	①		(名)	应该，理应，道理
はずす	①		(动 1 他)	取下，离开
はずれる	①		(动 2 自)	落空，不中；脱落
はた	②	[旗]	(名)	旗，旗帜
バター	①		(名)	黄油
はだか	①	[裸]	(名)	赤裸，裸体
はっけん	①	[発見]	(名・动 3 他)	发现
はったつ	①	[発達]	(名・动 3 自)	发达
はってん	①	[発展]	(名・动 3 自)	发展
はっぴょう	①	[発表]	(名・动 3 他)	发表
はつめい	①	[発明]	(名・动 3 他)	发明
はで	②	[派手]	(名・形 2)	花哨，艳丽
はなす	②	[放す]	(动 1 他)	放开，放掉
はなれる	③	[離れる]	(动 2 自)	离开，相隔
はね	①	[羽]	(名)	羽毛，翅膀
はば	①	[幅]	(名)	宽度，幅度
はめる	①		(动 2 他)	嵌，戴上(戒指)
はやし	①	[林]	(名)	林，树林
はやる	②	[流行る]	(动 1 自)	流行

はら	②	[腹]	(名)	肚子
はり	①	[針]	(名)	针
はる	①	[張る]	(动 1 自他)	伸展，拉，张
はんい	①	[範圍]	(名)	范围
ハンカチ	①		(名)	手绢
はんだん	①	[判断]	(名・动 3 他)	判断

ひ

ビール	①		(名)	啤酒
ひえる	②	[冷える]	(动 2 自)	发凉；变凉
ひかく	①	[比較]	(名・动 3 他)	比较
ひかる	②	[光る]	(动 1 自)	发光，发亮
ひきだし	①	[引き出し]	(名)	抽屉
ひげ	①		(名)	胡须，胡子
ひざ	①	[膝]	(名)	膝，膝盖
びじゅつ	①	[美術]	(名)	美术
ひじょうに	④	[非常に]	(副)	非常，很
ひつよう	①	[必要]	(名・形 2)	必要，必须
ひどい	②		(形 1)	过分，厉害
ひとしい	③	[等しい]	(形 1)	相等，相同
ひふ	①	[皮膚]	(名)	皮肤
ひも	①	[紐]	(名)	细绳子，带子
ひやす	②	[冷やす]	(动 1 他)	冰镇，冷却
ひょう	①	[表]	(名)	表，表格
ひよう	①	[費用]	(名)	费用
ひょうし	③	[表紙]	(名)	封面，封皮
ひょうじゅん	①	[標準]	(名)	标准
びょうにん	①	[病人]	(名)	病人
ひょうばん	①	[評判]	(名)	名声；获得好评
ひょうめん	③	[表面]	(名)	表面
ひろがる	①	[広がる]	(动 1 自)	展宽，扩展
ひろげる	①	[広げる]	(动 2 他)	展开，扩大
びん	①	[瓶]	(名)	瓶子
びんぼう	①	[貧乏]	(名・形 2)	贫穷，贫困

ふ

ふ／ぶ		[不/無～]	(前缀)	不，无
ふうとう	①	[封筒]	(名)	信封
ふうふ	①	[夫婦]	(名)	夫妇
プール	①		(名)	游泳池
ふえる	②	[増える]	(动 2 自)	增加，增多
ふくざつ	①	[複雑]	(形 2)	复杂

ふくしゅう	①	[復習]	(名・動 3 他)	复习
ふくむ	②	[含む]	(動 1 他)	含有，包含
ぶじ	①	[無事]	(名・形 2)	平安无事
ふしぎ	①	[不思議]	(名・形 2)	奇怪，不可思议
ふせぐ	②	[防ぐ]	(動 1 他)	防止，防守
ふた	①		(名)	盖子
ふだん	①	[普段]	(名・副)	平常，日常
ぶつり	①	[物理]	(名)	物理
ぶどう	①		(名)	葡萄
ふとる	②	[太る]	(動 1 自)	发胖
ふとん	①		(名)	被褥
ぶぶん	①	[部分]	(名)	部分
ふむ	①	[踏む]	(動 1 他)	踩，踏
ふる	①	[振る]	(動 1 他)	挥，摇，摆
ぶん	①	[分]	(名)	份，分量
ぶん	①	[文]	(名)	句，句子；文章
ぶんがく	①	[文学]	(名)	文学

へ

へい	①	[塀]	(名)	围墙
へいき	①	[平気]	(形 2)	不在乎，冷静
へいきん	①	[平均]	(名・動 3 他)	平均
へいこう	①	[平行]	(名・動 3 自)	平行
べつ	①	[別]	(名・形 2)	区别；另外
へる	①	[減る]	(動 1 自)	减少
へん	①	[変]	(形 2)	奇怪，反常
へんか	①	[変化]	(名・動 3 自)	变化

ほ

ほう	①	[方]	(名)	方向，方面，类型
ぼう	①	[棒]	(名)	棍，棒
ぼうえき	①	[貿易]	(名・動 3 自)	贸易
ほうこう	①	[方向]	(名)	方向
ほうこく	①	[報告]	(名・動 3 他)	报告
ほうほう	①	[方法]	(名)	方法
ほうもん	①	[訪問]	(名・動 3 他)	访问
ほうりつ	①	[法律]	(名)	法律
ほお	①		(名)	颊，脸蛋
ポケット	②		(名)	口袋，衣袋
ほご	①	[保護]	(名・動 3 他)	保护
ほこり	①		(名)	尘土
ほぞん	①	[保存]	(名・動 3 他)	保存

ボタン	①		(名)	钮扣，按键
ホテル	①		(名)	宾馆，酒店
ほどう	①	[歩道]	(名)	人行道
ほね	②	[骨]	(名)	骨头，骨架
ほめる	②	[褒める]	(动 2 他)	赞扬，表扬
ボランティア	②		(名)	志愿者，志愿人员
ほる	①	[掘る]	(动 1 他)	挖，挖掘

ま

まいる	①	[参る]	(动 1 自)	(自谦)去，来
まがる	①	[曲がる]	(动 1 自)	弯曲，拐弯
まく	①	[卷く]	(动 1 他)	卷上，缠上
まくら	①	[枕]	(名)	枕头
まげる	①	[曲げる]	(动 2 他)	弄弯，歪曲
まご	②	[孫]	(名)	孙子(女)，外孙(女)
まじる	②	[混じる]	(动 1 自)	搀杂，混杂
まずい	②		(形 1)	不好吃；不好
まずしい	③	[貧しい]	(形 1)	贫穷，贫乏
ますます	②		(副)	越来越…
まぜる	②	[混ぜる]	(动 2 他)	掺和，搅和
または	②		(接)	或，或者
まちがえる	④	[間違える]	(动 2 他)	弄错，搞错
まったく	①		(副)	完全，简直
マッチ	①		(名)	火柴
まとめる	①		(动 2 他)	总结，汇总
まま	②		(名)	原封不动，如实
まめ	②	[豆]	(名)	豆，大豆
まよう	②	[迷う]	(动 1 自)	迷失，困惑
まるで	①		(副)	宛如，完全
まわす	①	[回す]	(动 1 他)	旋转；传递
まわり	①	[回り]	(名)	周围
まわる	①	[回る]	(动 1 自)	转，巡回，迂回
まんぞく	①	[満足]	(名・动 3 自・形 2)	满足，满意
まんねんひつ	③	[万年筆]	(名)	钢笔

み

み	①	[実]	(名)	果实
みかた	①	[味方]	(名)	同伙，自己人
みせる	②	[見せる]	(动 2 他)	给……看，让……看
みつける	①	[見つける]	(动 2 他)	找，发现
みとめる	①	[認める]	(动 2 他)	承认，准许
みなと	①	[港]	(名)	港口，码头

みぶん	①	[身分]	(名)	身份
みらい	①	[未来]	(名)	未来
みんぞく	①	[民族]	(名)	民族

む

むかう	①	[向かう]	(动 1 自)	朝，向
むぎ	①	[麦]	(名)	麦子
むく	①	[向く]	(动 1 自他)	向，面对；适合
むける	①	[向ける]	(动 2 他)	向，朝，对
むすぶ	①	[結ぶ]	(动 1 他)	连接
むだ	①		(名・形 2)	浪费，白费
むね	②	[胸]	(名)	胸，胸部；内心
むらさき	②	[紫]	(名)	紫，紫色
むり	①	[無理]	(名・形 2)	勉强，硬要

め

め	①	[芽]	(名)	芽，嫩芽
めいし	①	[名刺]	(名)	名片
めいれい	①	[命令]	(名・动 3 他)	命令
めいわく	①	[迷惑]	(名・动 3 自・形 2)	麻烦；为难
メール	①		(名)	电子邮件
めでたい	③		(形 1)	吉利的，值得庆贺的
めんどろ	③	[面倒]	(名・形 2)	麻烦；照顾

も

もうす	①	[申す]	(动 1 他)	(自谦)说，叫做
もうふ	①	[毛布]	(名)	毛毯，毯子
もえる	①	[燃える]	(动 2 自)	燃烧
もくてき	①	[目的]	(名)	目的
もし	①		(副)	要是，如果
もちいる	③	[用いる]	(动 2 他)	用，使用
もちろん	②		(副)	当然，不必说
もともと	③	[最も]	(副)	最
もとめる	③	[求める]	(动 2 他)	想要，寻求，要求
もの	②	[者]	(名)	人，～的(人)
もも	①	[桃]	(名)	桃子
もよう	①	[模様]	(名)	花纹，图案；情况，样子
もん	①	[門]	(名)	大门

や

やがて	①		(副)	不久
やかましい	④		(形 1)	吵闹；严格
やく	①	[焼く]	(动 1 他)	烧，烤
やく	②	[役]	(名)	职务，角色
やくしょ	③	[役所]	(名)	官署，官厅
やしなう	③	[養う]	(动 1 他)	养活，养育
やせる	①		(动 2 自)	瘦
やっと	①		(副)	好不容易，总算，终于
やとう	②	[雇う]	(动 1 他)	雇，雇佣
やね	①	[屋根]	(名)	屋顶，房顶
やはり	②		(副)	仍然，也，毕竟
やぶる	②	[破る]	(动 1 他)	弄破，打败
やぶれる	③	[破れる]	(动 2 自)	破，打破
やむ	①	[止む]	(动 1 自)	停止

ゆ

ゆうき	①	[勇氣]	(名)	勇气
ゆか	①	[床]	(名)	地板
ゆかい	①	[愉快]	(形 2)	愉快
ゆしゅつ	①	[輸出]	(名・动 3 他)	出口
ゆだん	①	[油断]	(名・动 3 自)	疏忽大意
ゆにゅう	①	[輸入]	(名・动 3 他)	进口
ゆるい	②	[緩い]	(形 1)	松，不紧；缓慢
ゆるす	②	[許す]	(动 1 他)	允许，宽恕
ゆれる	①	[揺れる]	(动 2 自)	摇晃，摆动

よ

ようい	①	[用意]	(名・动 3 他)	准备
ようきゅう	①	[要求]	(名・动 3 他)	要求
ようじ	①	[用事]	(名)	事，事情
ようす	①	[様子]	(名)	情况，动向，迹象
ようふく	①	[洋服]	(名)	西式服装
ようやく	①		(副)	好不容易，勉强
よく	②	[欲]	(名)	欲望，贪心
よごれる	①	[汚れる]	(动 2 自)	弄脏
よさん	①	[予算]	(名)	预算
よしゅう	①	[予習]	(名・动 3 他)	预习
よそう	①	[予想]	(名・动 3 他)	预料，预计
よてい	①	[予定]	(名・动 3 他)	预定
よぼう	①	[予防]	(名・动 3 他)	预防
よほど	①		(副)	很，相当
よる	①		(动 1 自)	由于，取决于，基于

よる	①	[寄る]	(动 1 自)	靠(近)，顺便到
よろしい	①		(形 1)	好，行，没关系

ら

らく	②	[楽]	(形 2)	轻松，舒服
----	---	-----	-------	-------

り

りえき	①	[利益]	(名)	利益
りかい	①	[理解]	(名・动 3 他)	理解
りく	①	[陸]	(名)	陆地
りこう	①	[利口]	(形 2)	聪明，机灵
りそう	①	[理想]	(名)	理想
りっぱ	①	[立派]	(形 2)	漂亮，出色
りゆう	①	[理由]	(名)	理由
りゅうがく	①	[留学]	(名・动 3 自)	留学
りゅうこう	①	[流行]	(名・动 3 自)	流行
りょう	①	[量]	(名)	量，数量
りよう	①	[利用]	(名・动 3 他)	利用，使用
りょうきん	①	[料金]	(名)	费用
りょうしん	①	[両親]	(名)	父母，双亲
りょうしん	①	[良心]	(名)	良心
りょうほう	③	[両方]	(名)	双方
りょかん	①	[旅館]	(名)	(日式)旅馆
りろん	①	[理論]	(名)	理论
りんご	①		(名)	苹果

る

るす	①	[留守]	(名)	不在家
----	---	------	-----	-----

れ

れい	①	[零]	(名)	零
れいぎ	③	[礼儀]	(名)	礼节，礼貌
れいぞうこ	③	[冷蔵庫]	(名)	电冰箱
レストラン	①		(名)	餐厅
れつ	①	[列]	(名)	队，行列
れんらく	①	[連絡]	(名・动 3 自他)	联络，联系

ろ

ろうじん	①	[老人]	(名)	老人
ろうどう	①	[労働]	(名・动 3 自)	劳动
ローマじ	③	[ローマ字]	(名)	拉丁字母，罗马字
ろくおん	①	[録音]	(名・动 3 他)	录音

わ

ワイシャツ	①		(名)	(男)衬衫，衬衣
わかい	②	[若い]	(形 1)	年轻
わかす	①	[沸かす]	(动 1 他)	烧热，烧开
わがまま	③		(名・形 2)	任性
わかれる	③	[分かれる]	(动 2 自)	分开，分歧
わく	①	[沸く]	(动 1 自)	沸腾，烧开
わけ	①	[訳]	(名)	意思，理由，道理
わける	②	[分ける]	(动 2 他)	分开，划分
わりあい	①	[割合]	(名・副)	比例
わる	①	[割る]	(动 1 他)	分，除；弄碎
われる	①	[割れる]	(动 2 自)	破裂，弄碎；分裂
われわれ	①	[我我]	(名)	我们

(二) 日本語漢字表

説明：

1. 中国語と日本語がともに漢字を使用するという特徴に基づき作った表である。中国語のピンインの順序により日本語の漢字の読み方が調べることができ、字形の違いも識別できるようにしている。
2. 日本政府が公表した「常用漢字表」(1981)に基づき、「常用漢字」に当たるものだけを採った。
3. 表1と表2から成っている。表1においては、高校段階で新出の488字の日本語の漢字、並びに中学校段階で新出だが、高校段階で新たな読み方が現れた141字の日本語の漢字が含まれる(*印)。表2においては、特殊音の漢字を挙げている。
4. 表1はピンインの順序で並べている。【 】は日本語の漢字と対応するが、字形には相違がある中国語の漢字を示している。日中同形語は、別途に標記しない。
5. 音読は片仮名で表し、訓読は平仮名で表し、送り仮名は太字で表す。
6. 表2は特殊な読み方の漢字語であるから、五十音図の順番で並べてある。

表 1

A		崩	くずれる
*安	アン	*比	ヒ
岸	ガン	必	ヒツ
	きし		かならず
案	アン	*閉【閉】	しまる; とじる
奥	おく	避	さける
B		*変【変】	ヘン
抜【抜】	ぬく	標【标】	ヒョウ
敗【敗】	ハイ	表	ヒョウ
般	ハン		あらわす; おもて
坂	さか	*別【別】	ベツ
*板【板】	いた	波	なみ
棒	ぼう	捕	つかまえる
包【包】	つつむ	*歩【歩】	ホ
褒	ほめる	C	
保	ホ	才【才】	サイ
飽【飽】	あきる	材	ザイ
報【報】	ほう	*財【財】	ザイ
杯	ハイ	裁	サイ
背	せ	参	サン
倍	バイ		まいる
備【備】	ビ	*残【残】	ザン

蔵【藏】	のこす	到	トウ
操	ゾウ	盗	ぬすむ
差【差】	ソウ	*道	ドウ
察	サ	稲【稻】	いね
産【产】	サツ	灯	トウ
常	サン	等	ひとしい
	ジョウ	敵【敌】	テキ
	つね	底【底】	そこ
超	こえる	*地	ジ
臣	ジン	的	テキ
沈【沉】	しずむ	*調【调】	チョウ
承	ショウ	畳【叠】	たたみ；たたむ
程	テイ	丁	テイ
*遅【迟】	チ	定	ジョウ；テイ
*恥【耻】	はじ	凍【冻】	こおる
衝【冲】	ショウ	*動【动】	うごかす；うごく
重	かさねる	*都	ツ
臭【臭】	くさい	豆	まめ
*初	ショ	毒【毒】	ドク
礎【础】	ソ	独	ドク
触【触】	さわる	*度	ド；タク
床	ゆか		たび
唇	くちびる	端	はし
刺	シ	断	ダン
	さす		ことわる
従【从】	したがう		
存	ゾン		
		F	
D		乏	ボウ
代	ダイ	法	ホウ
	かわり	範【范】	ハン
	タイ	方【方】	ホウ
*待	なまける		かた
怠	タン	防	ボウ
単【单】	あてる		ふせぐ
*当	ドウ	訪【访】	ホウ
導【导】	トウ	*放	はなす
倒	たおす；たおれる	非【非】	ヒ
		沸	わかす；わく

費	ヒ
*分	わ かれる ; わける
粉	こな
封	フウ
*風【风】	フウ
縫【縫】	ぬ う
夫	フウ
	おっと
敷【敷】	しく
膚【肤】	フ
浮	う かぶ
幅	はば
福	フク
府	フ
腐	くさ る
婦【妇】	フ
復【复】	フク
腹	はら
複【复】	フク
縛【缚】	しば る

G

改【改】	あらた める
乾【干】	かわ かす ; かわく
港【港】	みなと
*高	コウ
告	コク
割【割】	わり; わ る ; われる
格	カク
個【个】	コ
根	ね
*工	ク
功	コウ
共	キョウ
*供	キョウ
谷	たに
骨【骨】	ほね
故	コ

雇【雇】	やと う
怪	ケ
観【观】	カン
慣【惯】	カン
	な れる
*光	ひか る
*広【广】	コウ
	ひろ がる ; ひろげる
*帰【归】	かえ す
規【规】	キ
果	カ
*過【过】	カ

H

*海【海】	カイ
含【含】	ふく む
行	ギョウ
*合	ゴウ
	あ う ; あわせる
*黒【黑】	くろ
*後【后】	コウ
候	コウ
*呼【呼】	コ
戸【户】	と
互	たが い
護【护】	ゴ
滑【滑】	すべ る ; なめらか
*画【画】	カク
懷【怀】	なつか しい
*壊【坏】	こわ す
環【环】	かん
緩【缓】	ゆる い
慌	あわ てる
灰【灰】	ハイ
*回	まわ す ; まわり;
	まわ る
悔【悔】	カイ
	くや しい

婚	コン	角【角】	カク
混	まじる; まぜる		かど
*火	カ	較【较】	カク
惑	ワク	接	セツ
		結【结】	ケツ
丿			むすぶ
基	キ	解【解】	カイ
激	ゲキ		とく; とける
	はげしい	届	とどく; とどける
積【积】	つむ	筋	すじ
鶏【鸡】	にわとり	*近	キン
及	および		ちかづく
急	キュウ	進【进】	シン
	いそぐ		すすむ; すすめる
給【给】	キュウ	禁	キン
技	ギ	経【经】	ケイ
計【计】	ケイ	精	セイ
	はかる	驚【惊】	おどろく
济【济】	サイ	井	ショウ
	すむ	*景	ケイ
寄	よる	警【警】	ケイ
寂	さびしい	敬	ケイ
際【际】	サイ	境	キョウ
加	カ		さかい
	くわえる	競【竞】	キョウ
*家	カ	究【究】	キュウ
肩【肩】	かた	酒	さけ
減【減】	へる	就	シュウ
簡【简】	カン	居	い
件	ケン	举【举】	キョ
*見【见】	ケン	具【具】	グ
	みせる; みつける	距	キョ
*建	ケン	劇【剧】	ゲキ
健	ケン	絹【绢】	きぬ
将【将】	ショウ	卷【卷】	まく
*降	おりる; おろす	掘【掘】	ほる
交	コウ	*覚【觉】	カク
郊	コウ	絶【绝】	ゼツ

均	キン	良	リョウ
K		両【两】	リョウ
勘	カン	量	リョウ
看	カン	列	レツ
康	コウ	林	はやし
*考	コウ	零【零】	レイ
可	カ	令【令】	レイ
刻	コク	*流	リュウ
*空【空】	から		ながす
恐	おそれる;	留	リュウ; ル
	おそろしい	陸【陆】	リク
*口	コウ	路	ロ
枯	かれる	録【录】	ロク
*苦	ク	律	リツ
	くるしむ; にがい	率	リツ
庫【库】	コ	慮【虑】	リョ
快	カイ	論【论】	ロン
困	コン	裸	はだか
	こまる	絡【络】	ラク
		落	おちる; おとす
L		M	
覧【览】	ラン	馬【马】	うま
劳【劳】	ロウ	*売【卖】	バイ
老	ロウ	麦	むぎ
*楽【乐】	ラク	満【满】	マン
	たのしむ	慢	マン
雷	かみなり	毛	モウ
類【类】	ルイ		け
*冷【冷】	レイ	茂	しげる
	ひえる; ひやす	貿【贸】	ボウ
離【离】	リ	*美	ビ
	はなれる	門【门】	モン
*力	リョク	迷	メイ
*立	リツ	*眠	ねむる
	たてる	面	メン
粒	つぶ	民	ミン
連【连】	レン	*明	メイ
	つれる		

命	あかり; あける
	メイ
	いのち
模	モ
黙【黙】	だまる
*目	モク
暮	くらす; くれる

N

*男	ダン
*難【难】	ナン
*内	ナイ
能	ノウ
泥	どろ
逆	ギャク
念【念】	ネン
寧【宁】	ネイ
*牛	ギユウ
農【农】	ノウ
努	ド
*暖	あたためる
*女	ジョ

P

派【派】	ハ; パ
判【判】	ハン; パン
配	ハイ
	くばる
棚	たな
皮	ヒ
	かわ
癖	くせ
片	かたづける
貧【贫】	ビン
	まずしい
品	ヒン
	しな
*平	たいら

瓶	ビン
評【评】	ヒョウ
破	やぶる; やぶれる

Q

妻	つま
旗	はた
祈	いのる
*起	おこす; おこる
器【器】	キ
*切【切】	きる

勤【勤】	きれる
	つとめる
*青	セイ
	あお
傾【倾】	ケイ
	かたむく
情	ジョウ
求	キュウ
	もとめる

区	ク
屈	クツ
曲	まがる; まげる
去	コ
泉	セン
権【权】	ケン
勸【劝】	すすめる
確【确】	カク
	たしか

R

燃	ネン
	もえる
任	ニン
認【认】	みとめる
*日	ジツ
栄【荣】	エイ
容	ヨウ

冗	ジョウ	示	しめす
乳	ニユウ	式	シキ
鋭【锐】	するどい	*試【试】	ためす
若	わかい	勢【势】	セイ
			いきおい
S		飾【饰】	かざる
散	サン	適【适】	テキ
	ちる	収【收】	シュウ
騒【骚】	さわぐ	*手	シュ
繰【繰】	くる	*守	ス
*掃【扫】	はく	*首	シュ
*砂【沙】	すな	輸【输】	ユ
殺【杀】	ころす	属	ゾク
商	ショウ	*束	たば
*上	ジョウ	術【术】	ジュツ
	あがる	*数	スウ
焼【烧】	やく	税	ゼイ
*少	ショウ	順【顺】	ジュン
舌	した	説【说】	セツ
射	シャ	糸【丝】	いと
設【设】	セツ	*思	シ
申	もうす	死	しぬ
*伸	のばす	寺	てら
身	み	似	にる
神	シン	飼【饲】	かう
	かみ	算	サン
*生	ショウ	孫【孙】	まご
	いきる; うむ;	損【损】	ソン
	なま; はえる		
盛	さかん	T	
*失	うしなう	他	タ
詩【诗】	シ	踏	ふむ
*石	セキ	*台	タイ
実【实】	ジツ	*太	タイ
	み		ふとる
識【识】	シキ	態【态】	タイ
*使	シ	談【谈】	ダン
市【市】	シ	炭【炭】	タン

逃	にげる
桃	もも
特	トク
替	かえる; かわる
田	た
条	ジョウ
眺	ながめる
鉄【鉄】	テツ
*庭	テイ
*通	かよう; とおす; とおり
*同	ドウ
筒	トウ
投	なげる
突【突】	トツ
	つく
塗【塗】	ぬる
土	ト
	つち
団【団】	ダン
退	タイ
 W	
完	カン
腕	うで
往	オウ
網【网】	あみ
望【望】	ボウ
	のぞむ
*危	キ
囲【围】	イ
	かこむ
*違【违】	ちがひ; ちがえる
偉【伟】	えらい
未	ミ
位	イ
胃	イ
温	オン

*文	モン
*問【问】	とい
我	ガ
	われ
握	にぎる
*汚【污】	よごれる
*無【无】	ブ; ム
務【务】	ム
霧【雾】	きり
 X	
*西	セイ
*吸	キュウ
希	キ
息	いき
惜	おしい
係【系】	ケイ
	かかり
*細【细】	こまかい
*下	カ
	おりる; おろす; さがる; さげる;
*嫌	ケン
	きらう
賢【贤】	かしこい
険【险】	ケン
限	かぎる
県【县】	ケン
現【现】	ゲン
	あらわす; あらわれる
線【线】	セン
*相	ソウ
詳【详】	くわしい
想	ソウ
響【响】	キョウ
*向	コウ
	むかう; むく;

象【象】	むける	洋	ヨウ
像【像】	ショウ	陽【阳】	ヨウ
削	ゾウ	養【养】	ヨウ
*消	けずる		やしなう
*小	きえる	様【样】	ヨウ
協【协】	ショウ		さま
斜	キョウ	腰	こし
*写【写】	ななめ	揺【揺】	ゆれる
械	うつす	*要	ヨウ
謝【谢】	カイ	*野	の
	シャ	*夜	ヤ
	あやまる	移	うつす; うつる
*心	シン	疑	ギ
信【信】	シン		うたがう
*行	おこなう	儀【仪】	ギ
*形	ケイ	以	イ
性	セイ	役	ヤク
幸	コウ	芸【艺】	ゲイ
興【兴】	キョウ	*易	エキ
胸	むね	益	エキ
*休	キュウ	訳【译】	わけ
修【修】	シュウ	義【义】	ギ
許【许】	ゆるす	憶【忆】	オク
序	ジョ	議【议】	ギ
軒【轩】	ケン	因	イン
懸【悬】	ケン	銀【银】	ギン
*選【选】	セン	隠【隐】	かくす; かくれる
穴	あな	印【印】	イン
血	ち		しるし
Y		営【营】	エイ
押	おさえる; おす	影	エイ
芽【芽】	め	勇【勇】	かけ
煙【烟】	けむり	用	ユウ
延【延】	のばす		ヨウ
岩	いわ	由	もちいる
研	ケン	油	ユウ
央	オウ		ユ
			あぶら

余	あまる	針【針】	はり
隅	すみ	振	ふる
愉	ユ	震	シン
与【与】	あたえる	争	ソウ
羽	はね		あらそう
予【預】	ヨ	徴【征】	チョウ
玉	たま	整	セイ
*育	そだつ; そだてる	*正	セイ
*欲	ヨク	政	セイ
預【預】	あずかる;	証【証】	ショウ
	あずける	支	シ
原	ゲン		ささえる
猿	さる	芝	しば
*遠【远】	エン	枝	えだ
越	こえる	*知	チ
		織【织】	シキ
Z		*直【直】	ジキ; チョク
載【載】	のせる		なおる
在	ザイ	*植【植】	ショク
臓【脏】	ゾウ	職【职】	ショク
造	ゾウ	*止	シ
則【则】	ソク		とめる; やむ
責【责】	セキ	*指	シ
増【増】	ゾウ	*紙【纸】	シ
	ふえる	志	シ
贈【贈】	おくる	治	ジ
札	サツ		なおす; なおる
展	テン	制	セイ
戦【战】	セン	*置【置】	チ
	たたかう	製【制】	セイ
*張【张】	チョウ	*終【终】	おわり
	はる	種【种】	シュ
*長【长】	チョウ		たね
障	ショウ	*重	ジュウ
招	ショウ	竹	たけ
照	てらす	主	シュ
折	おる; おれる		おも
*者	もの	煮	にる

*住	ジュウ
注	チュウ
祝	いわう
柱	はしら
貯【貯】	チョ
築【筑】	チク
爪	つめ
専【专】	セン
*転【转】	ころ ぶ
状	ジョウ
追	おう
準【准】	ジュン
*着【着】	チャク

	き せる
姿	すがた
*子	ス
紫	むらさき
縦【纵】	たて
*足	ソク
	た りる
*組【组】	ソ
最	サイ
	もつと も
罪	つみ
尊	ソン
*作	サク

現代汉语无音字及日造汉字

塀	ヘイ
扱	あつか う
*働	ドウ

表2

特殊读音的汉字

汉 字	读 音
伯父	おじ
伯母	おば
流行	はや る
梅雨	つゆ

四 文法

記号説明：

V＝動詞 (V₁＝一類動詞, V₂＝二類動詞, V₃＝三類動詞, V₀＝動詞基本形)

A＝形容詞 (A₁＝一類形容詞, A₂＝二類形容詞) N＝名詞 S＝文

語法形式	語法意義	例句
お(ご)Vする	自謙	わたしが お手伝い します。
お(ご)Vになる	尊他	田中さんはあした お帰り になります。
VかVないか	选择	川村さんが 来るか来ないか (が) 分からない。
Sが, ～	并列	歌も続く が , 踊りも続く。
(Nは)Nが～	主谓谓语句中的主语	(象は)鼻 が 長い。
Nがする	感觉	音 が する。
Nかどうか Sかどうか	选择	賛成 かどうか ははっきりしてください。 彼が来る かどうか 分からない。
Nかもしれない Sかもしれない	或然性	あの人はアメリカ人 かもしれない 。 あしたは雨が降る かもしれない 。
Nから	原材料	酒は米 から 作る。
	依据 / 基准	理論 から 説明してください。
	动作发出者	先生 から 褒められた。
A1くする A2にする	人为的变化	よく聞こえるように音を 大きく する。 部屋を きれい にする。
くれる	受益(授受) (第二、第三人称)	木村さんは妹に絵の具を くれた 。
Nこそ	强调	わたし こそ 失礼しました。
Sこと	名物化	田中さんが結婚した こと を知っていますか。
Vuことがある	间或发生的情况	ときどき, 一人で 食事することがある 。
Vことにする	主观意志决定	わたしは今度の夏休みに海へ行く ことにした 。
Vことになる	他人或客观条件决定	雨で野球の試合を中止する ことになった 。
Nさえ	极端的例子	彼は自分の名前 さえ 書けない。
	充分条件	これ さえ あれば十分だ。
V1せる V2させる	使役	お母さんは娘を買い物に 行かせた 。 空気が悪いので, 生徒に窓を 開けさせた 。
Sし	并列	雨が降っている し , 頭も痛いから今日は家にいよう。
Nずつ	等量反复	この時計は1日に5秒 ずつ 遅れる。
Vそうだ Aそうだ	推测性描述	雨が 降りそう だ。 おいしそう ですね。
Vたことがある	经历	日本に 行ったことがある 。
Vたばかりだ	刚刚发生	ぼくも今, 来たばかり だ。

V たまま	状態无变化	座ったまま 質問に答えてもいいですよ。
V ため (に) N のため (に)	目的	餃子 を作るために 、野菜や肉を買ってきた。 健康 のために 、毎日運動している。
V ため (に) A1 ため (に) A2 なため (に) N のため (に)	原因	事故が あったために 、道が込んでいます。 雨が 激しいため 、今日は客が少ない。 体が 不自由なために 、大変苦労した。 風邪 のため 、学校を休む。
A たら	假定条件	8 時 になったら 、授業を始めます。
V たら	既定条件	空港 に行ったら 、彼はもう着いていた。
Vu つもりだ	意志	今度の日曜日は映画を見に 行くつもりだ 。
N で	方法、情状	山に登りますから、運動靴 で 来てください。
V てあげる	施益（授受）	(わたしは)いとこに本を 読んであげました 。
V ていく	(時間) 由近 及远的移动	国に帰ってからも、日本語の勉強を 続けていく つもりだ。
V ていただく	受益（授受）	コンピューターが動かなくなったので、丁先生に 直していただきました 。
V ておく	预先做好某事	あしたまでに、作文を 書いておいて ください。
V てくださる	受益（授受）	先生は作文を 褒めてくださいました 。
V てくる	(時間) 由远 及近的移动	日本で学ぶ留学生の数が 増えてきた 。これからも増えていこう。
	(空間) 動作 対象由远及近 的移动	大学のときの友人が手紙を 書いてきた 。
V てくれる	受益（授受）	姉はよく料理を 作ってくれる 。
V てはいけない	禁止	うそを ついてはいけない 。
V てばかりいる	限定	彼は 遊んでばかりいる 。
A ても V ても	转折假定	どんなに 高くても 買いたい。 今から 行っても 間に合わない。
	转折既定	電気を 消しても 寝られなかった。
N でも	示例	時間があるから、お茶 でも 飲もうか。
	极端的例子	そんな簡単なことは子供 でも 分かる。
	任指（接疑问 词后）	家の近くだったらどこ でも いい。
V てもいい	允许做某事	試験が終わった人は 帰ってもいい 。
V てもらう	受益（授受）	ぼくは中村さんから年賀状の書き方を 教えてもらった 。
V てやる	施益（授受）	弟におもちゃを 買ってやった 。
S という N	内容	山田さんから、今日は出席できない という 連絡があった。
N と	结果	雪が溶けて水 となる 。
V と	既定条件	家へ 帰ると 、すぐ電話がかかってきた。 デパートへ 行くと 、チョコレートが山積みになっていた。

	動作継起	先生は教室に入ってくると、早速授業を始めた。
V とか A とか N とか	示例	散歩するとか体操するとか、何か運動したほうがいい。 家の広告には、駅に近いか広いか、いろいろな言葉が書かれている。 みかんとかバナナとか、何か果物を食べたほうがいい。
V ところだ	动作的阶段	今、小説を読む(読んでいる／読んだ／読んでいた)ところだ。
V ながら A ながら	转折	注意していながら、間違えてしまった。 忙しいながら、元気に過ごしていた。
V なくてもいい	允许不做某事	嫌いなら、食べなくてもいい。
N に	动作发出者	子供の時はよく親に怒られていた。
	使役対象	先生は生徒に第1課を復習させた。
V の S の	名物化	食べるのはなんでもないが、作るのは大変だ。 星が光っているのが見える。
V のに A 1 のに A2 なのに N なのに	转折	電池を替えたのに、時計が動かない。 おいしいのに、だれも食べなかった。 この歌は有名なのに、李さんは知らなかった。 あしたは日曜日なのに、学校へ行かなければならない。
V なら	假定条件	旅行に行くなら、カメラを持っていったほうがいい。
S なら	承继对方的话 或想法	携帯電話を持っているよ。 —— 携帯電話があるなら、いつでも連絡できるね。
V ば A ば	反事实假定条件	もっとお金があれば、買えるのに。 もう少し長ければ、使えるのに。
N ばかり	限定	日曜日はテレビばかり見ている。
V ほう A 1 ほう A2 なほう N のほう	突出所比较的双方中的一方	おおぜいで食べるほうがおいしいと思う。 ズボンは細いほうが好きだ。 好きなほうを選んでください。 わたしのほうが遅かった。
V ほど N ほど	程度	今日は死ぬほど疲れた。 日本語を少し勉強したが、王さんほどではない。
V ほど A 1 ほど A2 なほど	程度递进	読めば読むほど面白い。 早ければ早いほどいい。 新鮮なら(ば)新鮮なほどおいしい。
まで	范围的界定	中学生までは無料だ。
	极端例子	あなたまで(も)そうおっしゃると、困りますね。
	程度・限度	汚くなったら、洗濯するまでだ。
N までに	时间界限	父はいつも午後6時までに帰って来る。
S ようだ	推测	あの人はこの学校の生徒ではないようだ。
V ようだ N のようだ	比喻	(まるで)外国に来たような気分です。 この景色はまるで絵のようだ。
	示例	後で後悔するようなことはしたくない。 隣のおじさんのように親切な人はいない。
S らしい	推测	もう授業が始まっているらしい。
N らしい	具有某种性质	日本語らしい日本語が話したい。

V(ら)れる	被动	バスに乗った時、足を 踏まれた 。
	可能	この図書館にはだれでも 入れる 。
	自发	昔のことが 思い出された 。
	尊他	先生はもう 帰られた 。

五、教育実践例

説明：

義務教育段階の課程標準の教育実践例は、主に日本語知識・技能訓練・日本語の総合応用力の育成に関する実践例を提供した。これらも高校段階の教育実践に提供するものである。

タスク型教育活動は『標準』が提唱する教育形式の一つである。タスク型教育活動は、外国語学習の特徴を反映し、生徒が主体となり、教師の「指導」と生徒の「学び」のインタラクションを重視し、『標準』で提言した「課程目標」及び「内容標準」に一致するものである。そこで、本『標準』では、タスク型教育活動に関する実践例を主として提出する。

タスクとは、生徒が日本語を使って何かをするのに役立つ言語実践活動である。タスクの設計について、以下のような原則に従わなければならない。

1. 明確な目標を持つ。
2. リアリティがある。すなわち身近な生活に近いさまざまな活動である。
3. 情報の収集・処理・伝達というプロセスを含む。
4. タスクを進めるときは、日本語を使う。
5. 多様な方法(クラス単位、またはグループ)を用いる。
6. 生徒は実際に行うことによって、タスクを完了する。
7. タスクが終えた後、具体的な成果を展示する。

タスク型教育活動には、通常、タスクの準備・タスクの実行・タスクの発表という三つの部分がある。各部分は、学習目標によって様々な内容・形式・進行過程を設計できる。

タスク型教育活動の理念のもとにして作られた教材は、まだないという現状を踏まえ、『標準』で提供するタスク型教育活動の実践例は、現場教師に馴染みがある現行教科書の本文を2つ選び、教育目標によって設計したものである。しかし、これはあくまでも例示するもので、すべての教科書本文をこのようにタスク型教育活動に設計するわけではない。また一方、一つの教科書本文から一つのタスクに設計することも、いくつかのタスクに分けて設計することも有りうるのである。教師は『標準』の基本理念や要求のもとに、実際の状況に合わせ、生徒の生活経験や興味から、ここで例示する実践例を参照し、現場でのタスク型教育活動を創造的考案してもらいたい。

タスク型教育実践例一

活動目標：情報ギャップを活かし、トピックに基づきコミュニケーションをとる。

学習内容：お正月の料理

中国の高校生2人と日本からの留学生2人が話をしています。

松本：あつ、何ですか、それは。

高：これは友達からもらった年賀状です。

松本：えっ、年賀状ですか。でも、まだ12月ですよ。早すぎるんじゃないですか。

高：そんなことはないですよ。年賀状はだいたい今ごろから1月にかけてもらうのが普通です。日本では違うんですか。

原：日本でも12月に出すのが普通ですけど、届くのは1月1日なんです。12月中に年賀状をもらうことは絶対ないんですよ。

松本：「明けましておめでとう」というあいさつは12月に使わないからです。年末に人と別れる時には「よいお年を」という表現を使うんです。

高：そうですか。知りませんでした。正月にはどんなことをするんですか。

原：田舎に帰って、家族で過ごす人が多いですね。それで、家で作ったお節料理をみんなで食べたり……。

松本：へえ、お節料理を作るの。すごいね。うちでは全然作らなかったよ。うらやましいなあ。

朱：あのう、「お節料理」って何ですか。

松本：正月に食べる料理の一つで、いろいろな食べ物を箱に詰めたものです。だいたい年末に作って、正月に食べるんですけど。

原：食べ物の一つ一つに意味があるんですよ。例えば、昆布が入っているんですけど、これは「みんなが喜ぶ」という意味なんです。

高：えっ、なぜですか。

朱：あっ、分かった。つまり、「よろこんぶ」（喜ぶ＋昆布）ですね。

松本：正解。たいしたもんですね。

原：その外にもいつまでも元気に働けるようにとか、いろいろな意味の食べ物を食べて、家族の幸せを祈るんです。

朱：それはいいですね。おいしいですか。

松本：ええ、とても。中国では春節にどんなものを食べますか。

朱：地方によっていろいろですけど、わたしのところでは主にギョーザを食べます。昔のお金の形に似ているからだそうですよ。

高：それに、魚や鳥肉を食べることが多いですね。魚には「お金に余裕がある」という意味、鳥肉には「吉」という意味があります。中国語で音が同じだからなんです。

松本：なるほど。そう言えば、そろそろ春節ですね。楽しみだなあ。

朱：お節料理を食べるほかには、どんなことをするんですか。

松本：初詣に行く人が多いですね。でも、正月というと、家族と静かに過ごす人が多いと思いますけど。そうだよな。

原：そうね。

朱：それは中国でも同じだと思います。いつか機会があったらわたしも日本で正月を過ごしてみたいですね。

高：わたしも。

原：その時はぜひうちに来てください。お節料理をごちそうしますよ。

松本：あのう、わたしもごちそうになっていいかな。

原：どうぞご遠慮なく。でも作るのを手伝ってね。

教 具：活動カード

活動形式：クラスまたはグループで活動をする

活動過程：

タスクの準備：録音を聞いて、中国と日本の新年を祝う食習慣をメモに書く。（必要となる情報を探す）

生徒を A グループと B グループに分ける。A グループは、中国に関する内容を聞き取る。B グループは、日本に関する内容を聞き取る。A グループと B グループは、それぞれの必要となる情報を収集し、聞きながらメモをとる。

記録カード1

A組（中国）		B組（日本）	
習慣	理由	習慣	理由

タスクの実行：ディスカッション

1. AグループとBグループを組み直し、お互いに質問をし、情報のギャップを活かして会話を行う。日中それぞれの新年を祝う食習慣に関する内容を情報交換する。（「聞く」と「話す」を合わせて練習する）

例 A：中国ではお正月にどんなものを食べますか。

B：そうですね。中国では……。

あとう、日本ではお正月に、どんなものを食べますか。

A：日本では、……そうです。

B：そうですか。それはおもしろいですね。

2. 組み直したグループは、録音とディスカッションを通して得られた有効な情報をまとめる。（情報収集）

記録カード2

中国	日本

タスク結果発表：プレゼンテーション

1. 組み直したグループから代表を選び、収集した情報をクラス全員の前で紹介する。（口頭表現）
2. 他のクラスメートは、質問したり補足したりする。（口頭表現）
3. 先生はグループ代表の発表についてコメントを述べる。

補足アドバイス： 教育の実情に応じて、教師は以下の通りのタスク型教育活動も設計できる。

- (1) 「中国と日本の新年を祝う伝統的な習慣」という話題に基づき、同じ進行プロセスに従い、情報のギャップを活かしてコミュニケーションを行う。
- (2) 「聴解」のタスクを設計し、丁寧に聞くことや、大まかに聞くことを通して、聴解教材の中の難しいところや言語上の重要なポイントを聴きとらせる。
- (3) 日本語を使ってクラスジャーナルや壁新聞を出すというタスクを設計する。ネット検索や、書籍での調べなどの方法を通して情報収集をさせ、生徒の探求能力を高めさせる。

タスク型教育実践例二

活動の目標:教科書本文に合わせ、タスク型教育活動を行い、生徒の調べ学習能力を養う。

学習内容：わたしたちの夢

わたしたちの夢

わたしには将来童話作家になりたいという夢があります。小さいころから童話がすきでした。小学生の時には童話の本をたくさん読みました。特にグリムの作品が大好きです。わたしも『白雪姫』のような童話を書きたいと思っていました。中学生の時、童話を書いてみました。象が主人公でした。その象は行動も考え方も人間のように、友達がそれを読んで、おもしろいと言っていました。わたしはとてもうれしくなりました。そして、将来、子供たちのために童話作家になろうと思いました。

頑張って、この夢を実現して、みんなが喜ぶ童話をたくさん書きたいと思います。

わたしは夏休みに毎日音楽を聞きました。ベートーベンドイツで生まれた有名な作曲家です。彼は耳が不自由になりましたが、たくさんのすばらしい曲を作りました。優れた曲はいつの時代にも、人の心を豊かにし、明るくします。

わたしはあまり才能はありませんが、音楽が好きですから、一生懸命努力してベートーベンのような作曲家になりたいと思っています。そして、一つでも人の心に残る曲を作ることができたらと思っています。

わたしの今の夢は看護婦になることです。小さいころは、オリンピックをテレビで見て、体操の選手になりたいと思っていました。近くの少年宮で、毎日夜遅くまで練習していました。

中学三年の時、体操の練習でけがをして入院しました。そのけがでもう体操の選手という夢が実現できなくなりました。わたしはとてもがっかりしました。でも、看護婦さんたちの優しい言葉で、元気になりました。看護婦さんたちはみんな患者のために尽くしています。その姿を見て、とても感動しました。それで、わたしもあの看護婦さんのようになって、病気になった人たちに希望と喜びを与えたいと思います。

教 具：活動カード

活動形式：クラス活動またはグループ活動

活動過程：

タスクの準備：夢を話し合う（「聞くと話す」からタスクを始め、生徒の背景知識を活性化する。

1. 教師から話題を提供する。「今日は夢について、…」
2. グループを分けて活動記録カードを配布する。
3. それぞれの夢について話し合う。幼い時の夢でもいいし、現在の夢でもいい。
4. それぞれ活動記録カードを使って、他者の発言の要点を記録する。（聴解、メモとり）
5. 聞き取れない場合は、質問してもいい。（表現）
6. タスクをしながら、聞き取れた程度を記録する。（自己評価、形成的評価）
7. 表現するとき、困難だと思ったことを記録する。（自律学習、認知ストラテジー）
8. メンバーの発言がすべて終わったあと、自分のグループメンバーの「夢」、また「そのきっかけ」について一緒にまとめる。（整理とまとめ）
9. グループから代表を1名選び、活動の結果をクラス全員の前で報告する

例：活動記録カード（生徒に聞き取れたことを記録させて、自らの聴解力や表現を分析さ

せる。)

	発言者	关于“夢”	理由	理解程度自我分析
听力自我分析	張楠さん	小さい頃：医者 今：教師	よく病気したから。 教えることが面白い。	听懂 未听懂 部分听懂 原因：对方表述不清
	王飛さん	ずっと 記者	自分の目でいろいろな ことを見たいから。	听懂 未听懂 部分听懂 原因：预习充分
	李新さん	ジャー？ 新聞？ 記者？	父の影響で。	听懂 未听懂 部分听懂 原因：生词影响
	⋮	⋮	⋮	⋮
语言表达自我分析		语言表达障碍： 「～たい」のほかの表現はできない。 理由の説明が足りない。		
表达方式小结		“わたしの夢は～です。” ……		

注：太字以外の欄には、生徒が記入する。上の内容は例である。生徒のレベルによって、記録カードは簡潔なものでも、複雑なものでもよい。

タスクの実行：言葉の表現を考える

1. グループの代表者がクラス全員に活動状況を報告する。
2. 教師は、黒板に生徒の夢や表現の問題点を板書する。
3. 生徒をグループに分けて教科書本文を読み、関連ある表現を探し集める。

タスク呈示：本文調査の報告

1. グループの代表者は、自分のグループで探し出した表現を黒板に書く。
2. 教師は、生徒のまとめにコメントをつける。必要に応じて説明を加える。

表現のまとめ：

- ・わたしには～たいという夢があります。
- ・～なりたいと思っています。
- ・わたしの（今の）夢は～になることです。
- ・～たらと思っています。
- ……

3. 新しくまとめられた表現の方法を使い、自分の夢をもう一度話し合い、お互いに訂正する。

4. 成果発表

- ①「わたしの夢」をテーマにして作文をする。
- ②壁新聞を貼り出す：自分の作文を展示する。
- ③生徒が「一番好きな作文」を選ぶ。それらをよくできた作品としてその生徒の学習ポートフォリオに入れる。（形成的評価）

補足アドバイス：教育実情によって、教師は他のタスク型教育活動をしてよい。

例：文法知識の調べ学習

生徒が例文を収集することにより、本課の「～ように」「～ために」などを比較するよう指導する。

六、評価事例

説明：

評価事例を提示する目的は、日本語学習における生徒の情意・態度、学習ストラテジー、技能習熟度、タスクの完成度を評価する際に、参考になる方法や手順などを提供するにある。タスク型教育活動の評価については、生徒が正しい日本語表現が使えるかということを見るだけでなく、学習者同士の間コミュニケーションをスムーズに行ったかということにも注目すべきである。

ここに挙げられた評価事例は、定性評価と定量評価・自己評価と他者評価・総合評価と項目評価・形成的評価と最終評価を結びつけるなどの評価基準に従ったものである。現場の教師は、「標準」の基本理念と要求に基づいて、評価事例を参照し、多様な方法で創造的に評価すべきである。生徒に対する評価は、個別的かつ丁寧に、適切な方法で、タイミングを見ながら行うべきである。評価頻度は頻繁すぎないように注意を払うべきである。そして、義務教育段階の評価事例は、高校段階にも適用できる。

事例一：学習状態の自己評価

次の表で示した項目を参考し、自分の学習状態について評価する。

頭がすっきりし、素早く考えることができる	自己評価： (例)集中力がなくて、勉強に専念できるが、聞き取り・読み・理解することがまだ完全ではなく、正しさの足りない。単語量が足りないため、聴解と読解に問題があるのだと思う。文脈把握には問題があり、一部の言葉にこだわり過ぎるのだと思う。
集中力があり、一つのことに専念できる	
積極的で、真面目である	
聞いたことが正しく理解できる	
読んだことが正しく理解できる	
速くて正確に記憶できる	
余裕を持って、リラックスできる	
健康状況がいい	

注：この表は、生徒の学習状態を把握するためのアンケートやインタビューの質問項目として使える。

事例二：日本語学習のストラテジーと意識の調査

番号	調査内容	はい	ほとんどはい	ほとんどいいえ	いいえ
1	いつも、「予習—授業—復習—宿題—まとめ」というプロセスで日本語を勉強しているか。				
2	常に日本語の学習とほかの授業で習ったことと繋げて考えているか。				
3	一つのユニットの学習が終わった後、または学期中間、期末に、学習内容をまとめて復習しているか。				
4	試験のあと、自分で自分の長所と短所を分析しているか				
5	日本語の文型や文法の学習を重視しているか。				
6	日本語を使って他人とよく交流しているか				

7	意識的に日本語でディスカッションやディベートをしているか。				
8	日本語学習の中から、いつも問題を発見・解決しようとしているか。				
9	日本語の学習資料(例えば、ノートやカードなど)をよく集めているか。				
10	自分で日本語学習の計画が立てられるか。				
11	一般的な学習方法を日本語学習に取り入れられるか。				
12	自分の学習方法をよくチェックし、改善しているか。				
現在の学習ストラテジーに対する意識：(例)学習し、活用に努力している。					

注：回答に、「はい」や「ほとんどはい」が多数の場合、学習ストラテジーを大体使えるということが分かる。「いいえ」や「ほとんどいいえ」が多数の場合、学習ストラテジーがまだ上手に活用できないということが分かる。

事例三：読解ストラテジーの使用状況に関する調査

番号	読解ストラテジー	よく使う	ときどき使う	あまり使わない
1	タイトルから文章の主旨を推測する。			
2	マクロの視点で文章を読む。個々の言葉にこだわりすぎない。			
3	言葉の形から、言葉の文法機能を把握する。			
4	接続語や指示語から文脈にある関係を推測する。			
5	既知情報から、次に続く文の内容を推測する。			
6	読解中の難関を克服し、効果的な方法を使って読み続ける。			
7	主題をもとにして、内容に関わる背景知識を利用する。			
8	読解を面白いこととして行う。			
9	内容に関係ある事例を使い、読解の内容を理解する。			
10	辞書で調べるのは最後の方法にし、言葉の意味を考え分析する。			

事例四：技能レベルに関する自己評価

次の表に挙げられた基準で、「聞く」「話す」「読む」「書く」のレベルや総合的な技能はどうかを判断する。

聞 く	1.日常会話の中で、相手の話が分かる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	2.授業活動の中で、相手の話が分かる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	3.聞く能力が前月より上達した。(はい、いいえ)
	4.聞いた内容が推測できる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
話 す	1.日常会話の中で、自分の言いたいことが正しく言える。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	2.授業活動の中で、自分の言いたいことが正しく言える。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	3.話す能力が前月より上達した。(はい、いいえ)
	4.言葉でうまく表現できないとき、ほかの伝え方を探す。(できる、大体できる、ほとんどできない)
読 む	1.日本の新聞や雑誌から必要となる情報を収集できる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	2.既習レベルの読解資料が読める。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	3.読む能力が前月より上達した。(はい、いいえ)
	4.読んだ内容が推測できる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
書 く	1.授業外において、既習の日本語知識を使って正しい文章が書ける。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	2.授業中、既習の日本語知識を使って正しい文章が書ける。(できる、大体できる、ほとんどできない)
	3.書く能力が前月より上達した。(はい、いいえ)
	4.書くときに知らない単語がある場合、対応できる。(できる、大体できる、ほとんどできない)
以上の自己評価を通して、あなたの総合的な技能レベルはどういう状況にあるか。 (例：かなりいい、心配ない)	

注：回答には、「できる」や「大体できる」や「はい」が多数の場合は、総合的な技能レベルが高いということが分かる。「ほとんどできない」や「いいえ」が多数の場合は、総合的な技能レベルがまだ低く、努力する必要があるということが分かる。

事例五：タスク型教育活動の評価要点

本書の「タスク型教育実践例一」に基づいて、次のような評価のポイントを考案した。

活動の過程	評価のポイント
タスクの準備：録音を聞いて、中国と日本の新年を祝う食習慣をメモに書く。(必要となる情報を探す)	1.必要となる情報を集中して聞き取れる。 2.食習慣の形成及び形成原因が聞き取れる。 3.しっかりと記録する。
タスクの実行：ディスカッション 1. AグループとBグループを組み直し、お互いに質問をし、情報のギャップを活かして会話を行う。日中それぞれの新年を祝う食習慣に関する内容を情報交換する。 (「聞く」と「話す」を合わせて練習する) 2. 組み直したグループは、録音とディスカッションを通して得られた有効な情報をまとめる。(情報収集)	1.聞き取れた情報(食習慣やその原因)を相手に大体伝えられる。 2.相手からの情報を真面目に聞く。 3.適切なストラテジーを使って、情報を順調に交換する。 4.正しくまとめて、分かりやすい記録を残す。 5. 日本語のみでコミュニケーションを行う。

	6.グループ同士の協力はほぼ成功である。 7.司会者の役割はほぼ果たした。
タスク結果発表：プレゼンテーション 1. 組み直したグループから代表を選び、収集した情報をクラス全員の前で紹介する。(口頭表現) 2. 他のクラスメートは、質問したり補足したりする。(口頭表現) 3. 先生はグループ代表の発表についてコメントを述べる。	1. プレゼンテーションの内容は、自分のグループの活動を反映している。 2. プレゼンテーションは筋が通っている。 3. プレゼンテーションの日本語が大体正しい。 4. 積極的に質問する。 5. 質問が話題と繋がっている。 6. 自信を持っている。
補足アドバイス：教育の実情に応じて、教師は以下の通りのタスク型教育活動も設計できる。 (1)「中国と日本の新年を祝う伝統的な習慣」という話題に基づき、同じ進行プロセスに従い、情報のギャップを活かしてコミュニケーションを行う。 (2)「聴解」のタスクを設計し、丁寧に聞くことや、大まかに聞くことを通して、聴解教材の中の難しいところや言語上の重要なポイントを聴きとらせる。 (3) 日本語を使ってクラスジャーナルや壁新聞を出すというタスクを設計する。ネット検索や、書籍での調べなどの方法を通して情報収集をさせ、生徒の探求能力を高めさせる。	1. 必要となる情報を積極的に探す。 2. コミュニケーション能力を高めるに役立つ語彙や表現を探す。 3. クラスジャーナルや壁新聞の情報が豊富で、デザインが独特である。 4. クラスジャーナルや壁新聞の中に、オリジナルの見方がある。 5. 日本語の表現は大体正しい。

事例六：高校日本語学習の期末評価案

第一部：形成的評価

番号	評価内容	選定するサンプル	採点			
			自己評価	生徒同士評価	教師評価	項目まとめ
1	思考能力	自由トピックのスピーチ及びその枠組みや原稿、または自由会話 授業中の質問・回答やグループ活動 口頭や筆記による宿題の完成度・完成の質・及び訂正状況				
2	参与的行為					
3	自律意識					
4	読解	予習する文章・授業外の読解文の抜粋やまとめた要旨・原文を書き直したもの。				
5	作文	ポートフォリオにいった作文の全部。選択・訂正・コメント				

		をしたもの				
6	タスク学習	タスクを選択し、実行案を決定し、協働学習を行う。				
7	単元テスト	口頭テスト・聴解テストあるいはペーパーテストを行う。				
8	中間テスト	口頭テスト・聴解テストあるいはペーパーテストを行う。				
⋮	⋮	⋮				
総合的評価						

注：

1. 教師はそれぞれの現状に従って形成的な評価を行う回数を決める。
2. 評価の内容やサンプルなどは、教師の意思により選ばれる。
3. 1～6 は段階評価法で行い、7～8 は点数の評価法を取るよう提案する。段階評価の目的は生徒を励ますことである。例えば：優秀・すばらしい・よくできた・頑張った・もっと頑張る。点数で評価する場合は、百点満点でも、五点満点でもよい。

第二部：最終評価

最終評価において、下で示した通りの方法で、生徒の総合的技能のレベルを考査する。

口頭テスト

聴解テスト

ペーパーテスト

注：3 つのテストが占めるパーセンテージは学校や教師がそれぞれの現状に従って決める。

第三部：評価報告書

学校_____ クラス_____ 名前_____

評価内容	成績評価			
	項目成績	日常成績	期末成績	学期成績
思考能力				
参与的行為				
自律意識				
読解				
作文				
タスク学習				
単元テスト				
中間テスト				
教師からのコメント				
署名(教師) :				
印鑑(学校) :				

注：1. 「項目成績」は、「第一部」の「項目まとめ」に相当する。

2. 「日常成績」は、各項目成績を総合的にまとめて、出てきたもので、「第一部」の「総合的評価」に対当する。
3. 「期末成績」には、「第二部」の平均値を書き込む。
4. 「形成的評価」と「最終評価」が学期成績に占める割合は、学校または教師が現状に従って臨機応変に設定する。
5. 「教師からのコメント」の中身は、簡潔で分かりやすく、励ましのものが主となる。各生徒の成長や特長が反映できるような内容が望ましい。